

# 急性期医療に関する作業グループ第4回会合 資料

## 【目次】

1. 看護職員の配置の差による医療の実施内容について
  - 1-1. 看護職員の「配置が薄い病院」が多い地域について
  - 1-2. 全医療圏及び人的資源が乏しい医療圏における「配置が厚い病院」と「配置が薄い病院」について
2. 高齢者に対する医療について
3. 高齢者の割合が高い（75歳以上人口割合が高い）地域における医療について
4. 診療科数ごとの医療の実施内容について
5. 病院の特性ごとの平均在院日数について

※特に注釈がない場合、「平均在院日数」とは、一般病床の平均在院日数を指す。

なお、算定に当たっては、病院報告における定義  $\left( \frac{\text{年間在院患者延数}}{1/2 \times (\text{年間新入院患者数} + \text{年間退院患者数})} \right)$  を用いた。

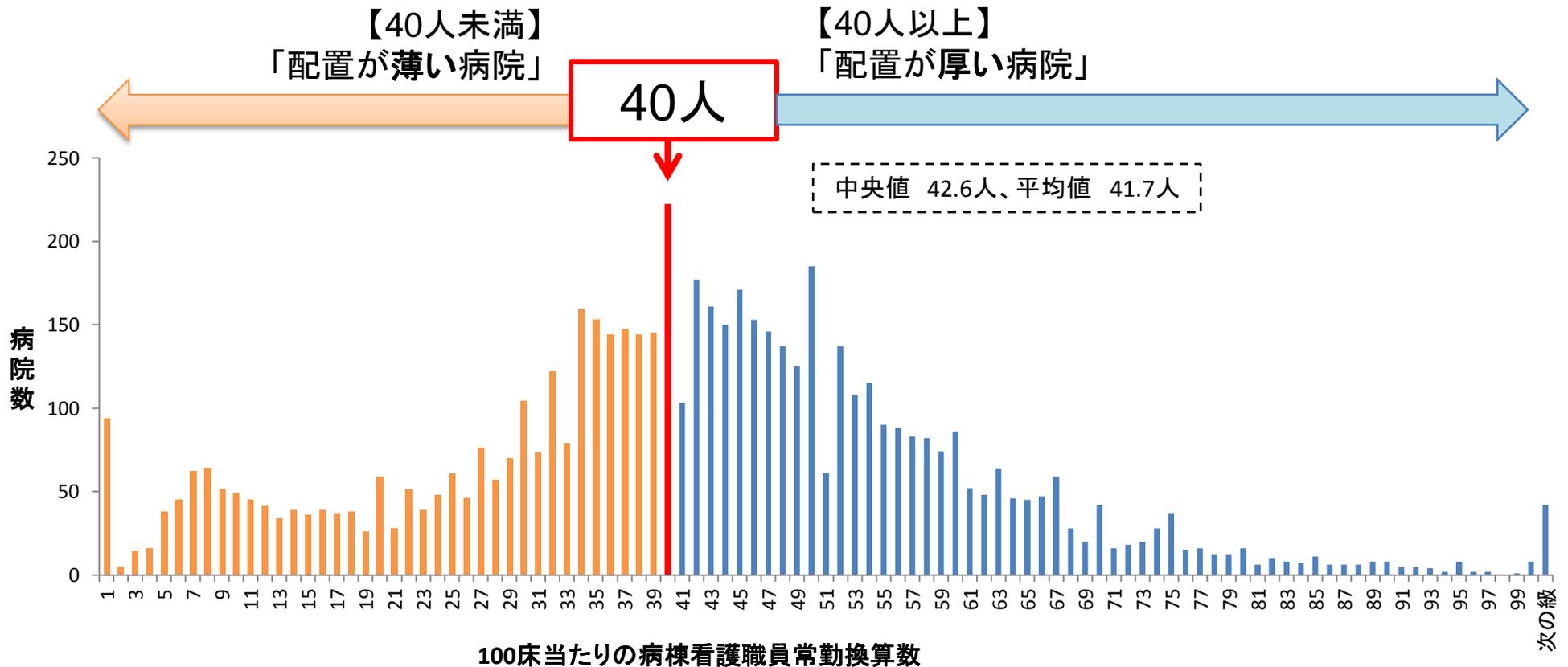
# 1. 看護職員の配置の差による医療の実施内容について

## 1-1. 看護職員の「配置が薄い病院」が多い地域について

# 看護職員の「配置が厚い病院」と「配置が薄い病院」について

○病院における人的資源を代表する要素として、一般病床100床当たりの病棟看護職員数をみた場合に、全病院の中央値・平均値\*に近い40人を区切りとし、40人以上の病院(以下「配置が厚い病院」という。)と40人未満の病院(以下「配置が薄い病院」という。)の二群に分けることとする。

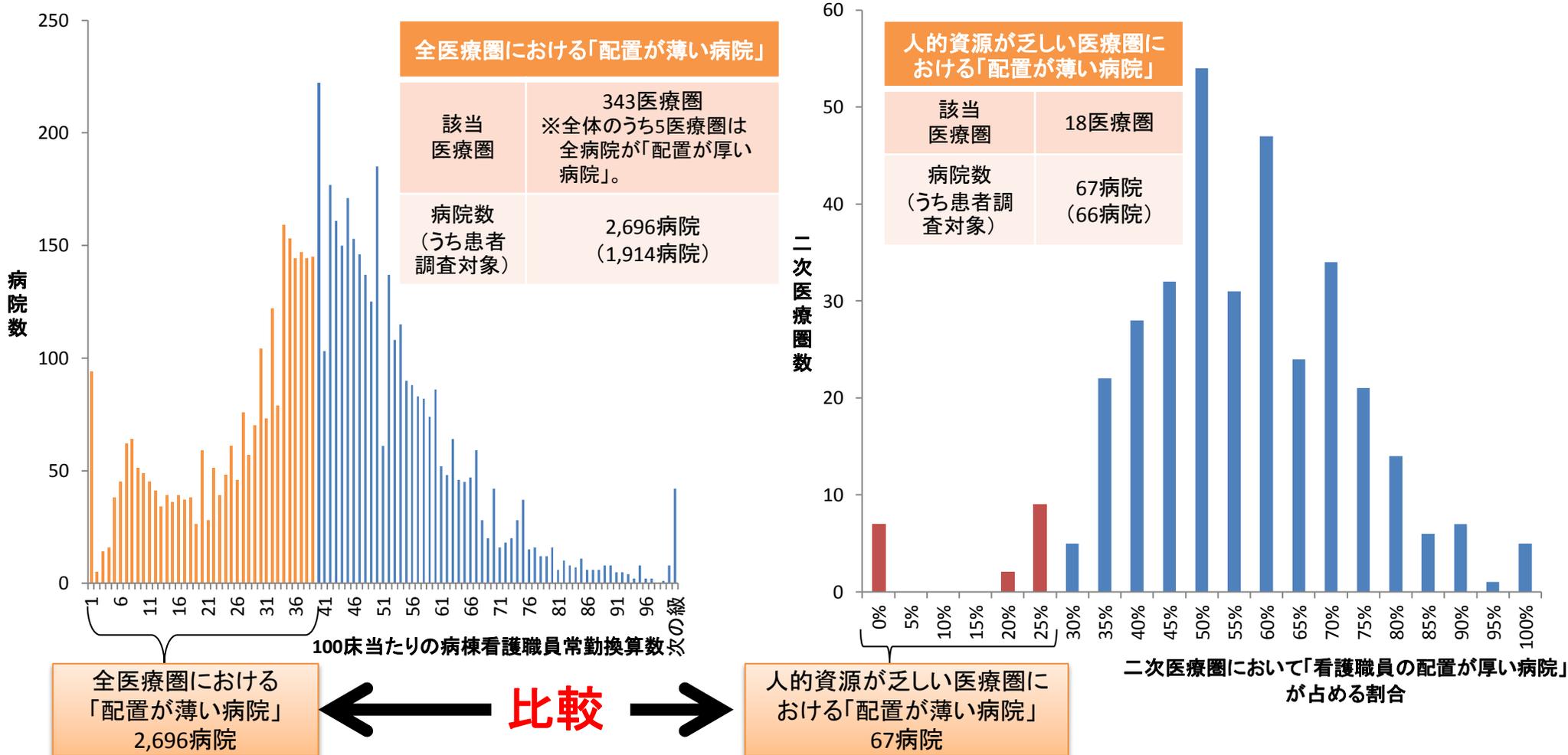
\*一般病床を有する6,028病院について、一般病床100床当たりの病棟看護職員(看護師・准看護師)常勤換算数の中央値は42.6人、平均値は41.7人であるため、病棟看護職員常勤換算数40人を区切りとした。



# 「人的資源が乏しい医療圏」について

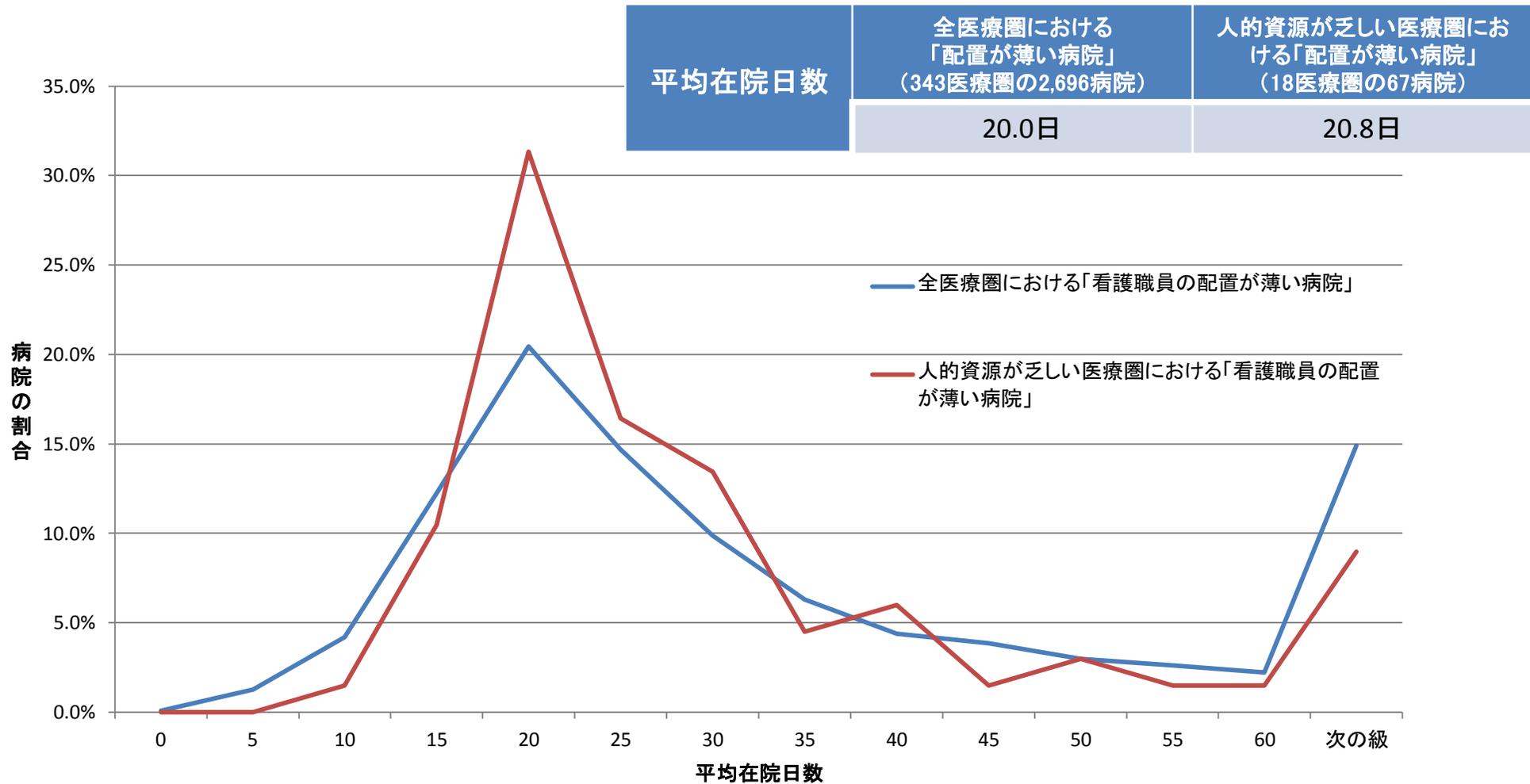
○各二次医療圏内の病院のうち、「配置が薄い病院」が75%以上を占める医療圏を「人的資源が乏しい医療圏」とすると、18医療圏が該当する。

○全医療圏と、当該18医療圏のそれぞれにおける「配置が薄い病院」同士を比較する。



# 平均在院日数別の病院の分布（「配置が薄い病院」間の比較）

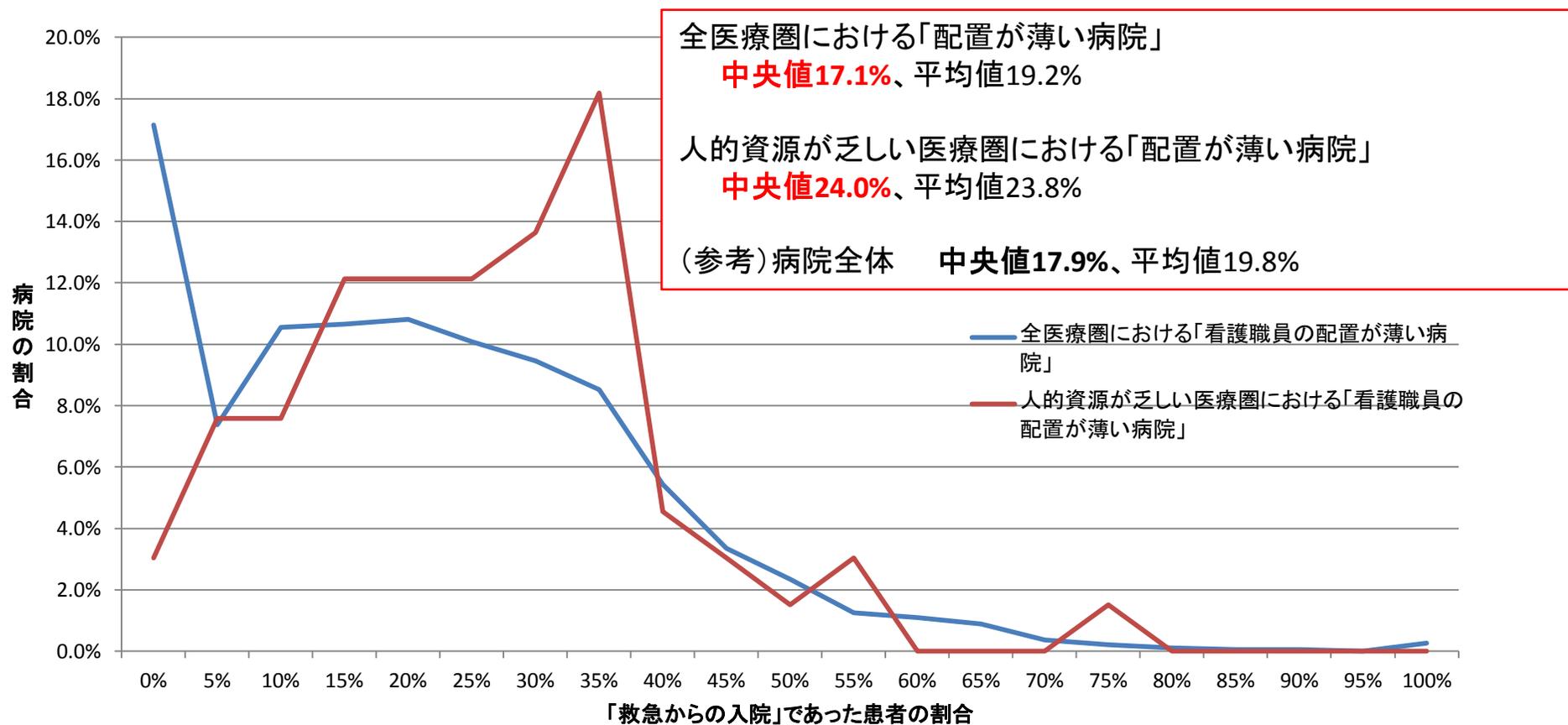
- 人的資源が乏しい医療圏における「配置が薄い病院」の平均在院日数は20.8日であり、全医療圏における「配置が薄い病院」とほぼ変わらない。
- 医療圏内の多くが「配置が薄い病院」であっても、全体と比較して、平均在院日数の差はみられない。



# 退院した患者のうち「救急からの入院」であった患者の割合（「配置が薄い病院」間の比較）

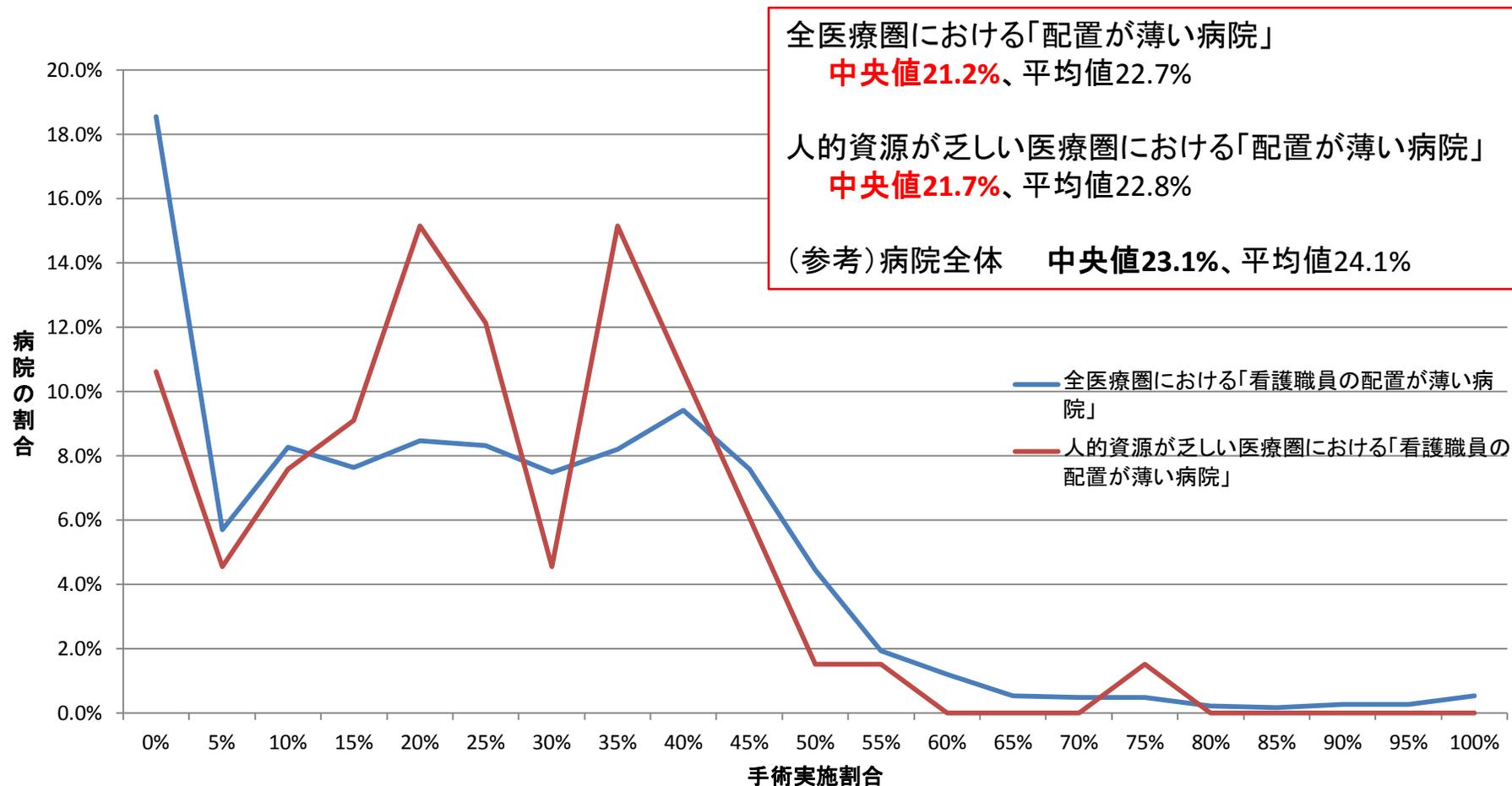
- 一般病床から退院した患者のうち、「救急からの入院\*」であった患者の割合について、中央値で比較すると、人的資源が乏しい医療圏における「配置が薄い病院」は、全医療圏における「配置が薄い病院」と比べて、6.9%高い。また、病院全体の中央値と比較しても、6.1%高い。
- 人的資源が乏しい医療圏においては、その他の地域と比べて、「配置が薄い病院」が救急医療をより担っているといえる。

\*「救急からの入院」とは、救急車、救急外来、診療時間外のいずれかにより入院した患者。



# 退院した患者のうち「手術を実施した患者」の割合（「配置が薄い病院」間の比較）

○一般病床から退院した患者のうち、手術を実施した患者の割合について、中央値で比較すると、人的資源が乏しい医療圏における「配置が薄い病院」は、全医療圏における「配置が薄い病院」とほぼ変わらない。

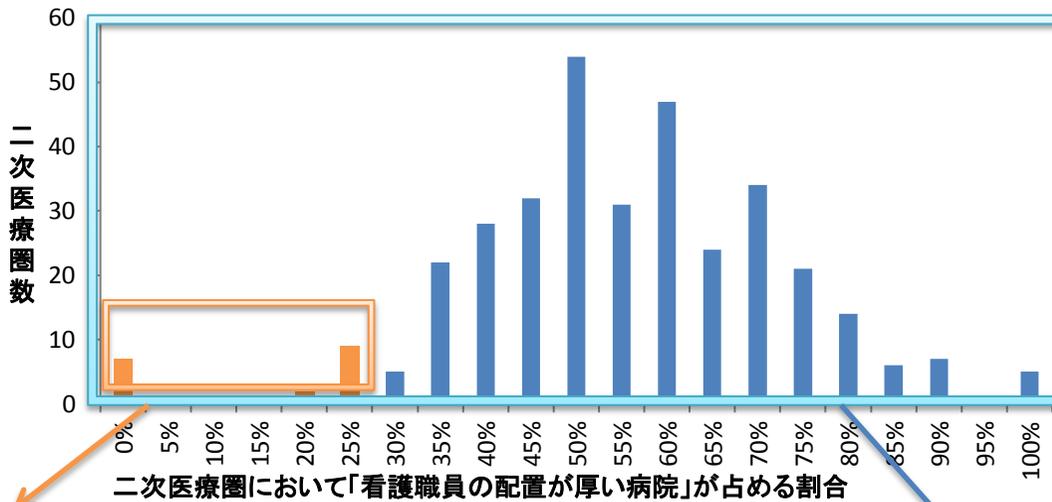




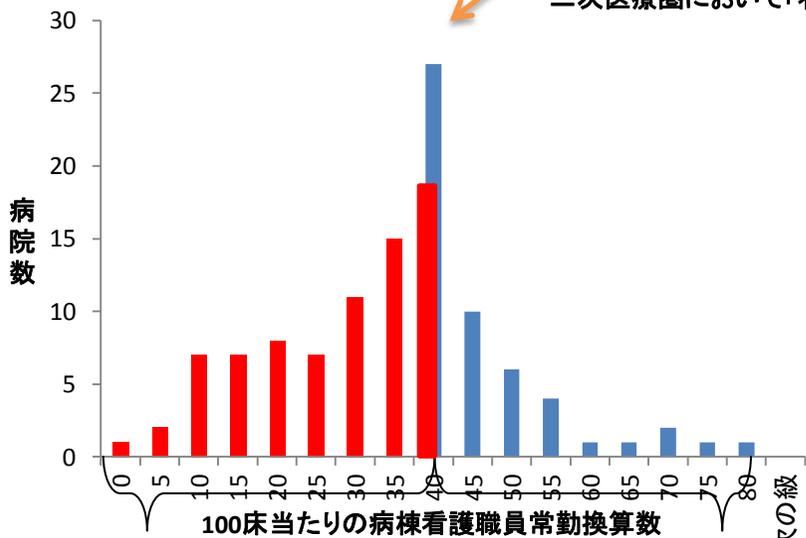
1. 看護職員の配置の差による医療の実施内容について
  - 1-2. 全医療圏及び人的資源が乏しい医療圏における「配置が厚い病院」と「配置が薄い病院」について

# 全医療圏及び人的資源が乏しい医療圏における 「配置が厚い病院」と「配置が薄い病院」について

人的資源が乏しい医療圏	
医療圏数	18医療圏
病院数 (うち患者調査対象)	81病院 (80病院)
配置が薄い病院数 (うち患者調査対象)	67病院 (66病院)



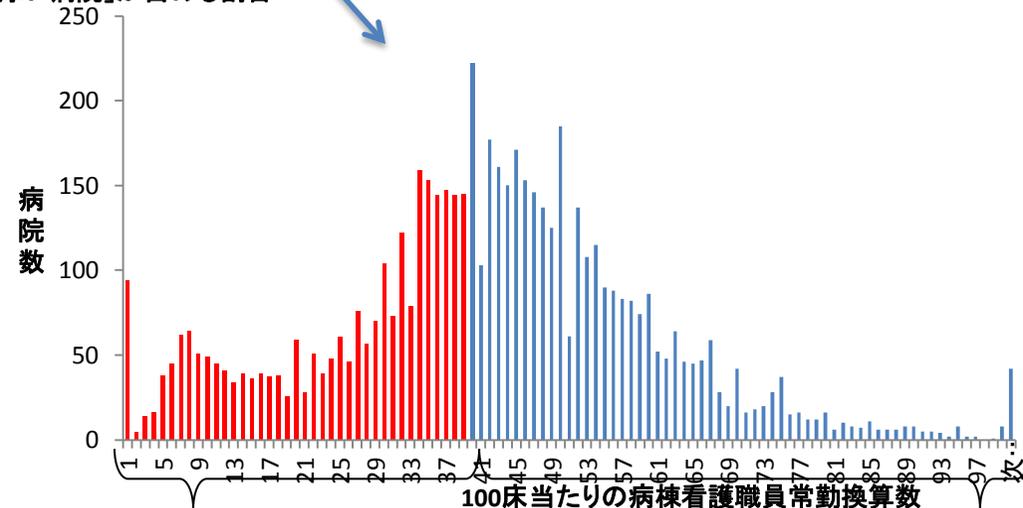
全医療圏	
医療圏数	348医療圏 (H20当時)
病院数 (うち患者調査対象)	6,028病院 (4,341病院)
配置が薄い病院数 (うち患者調査対象)	2,696病院 (1,914病院)



人的資源が乏しい医療圏における「配置が薄い病院」  
67病院

人的資源が乏しい医療圏における「配置が厚い病院」  
14病院

比較



全医療圏における「配置が薄い病院」  
2,696病院

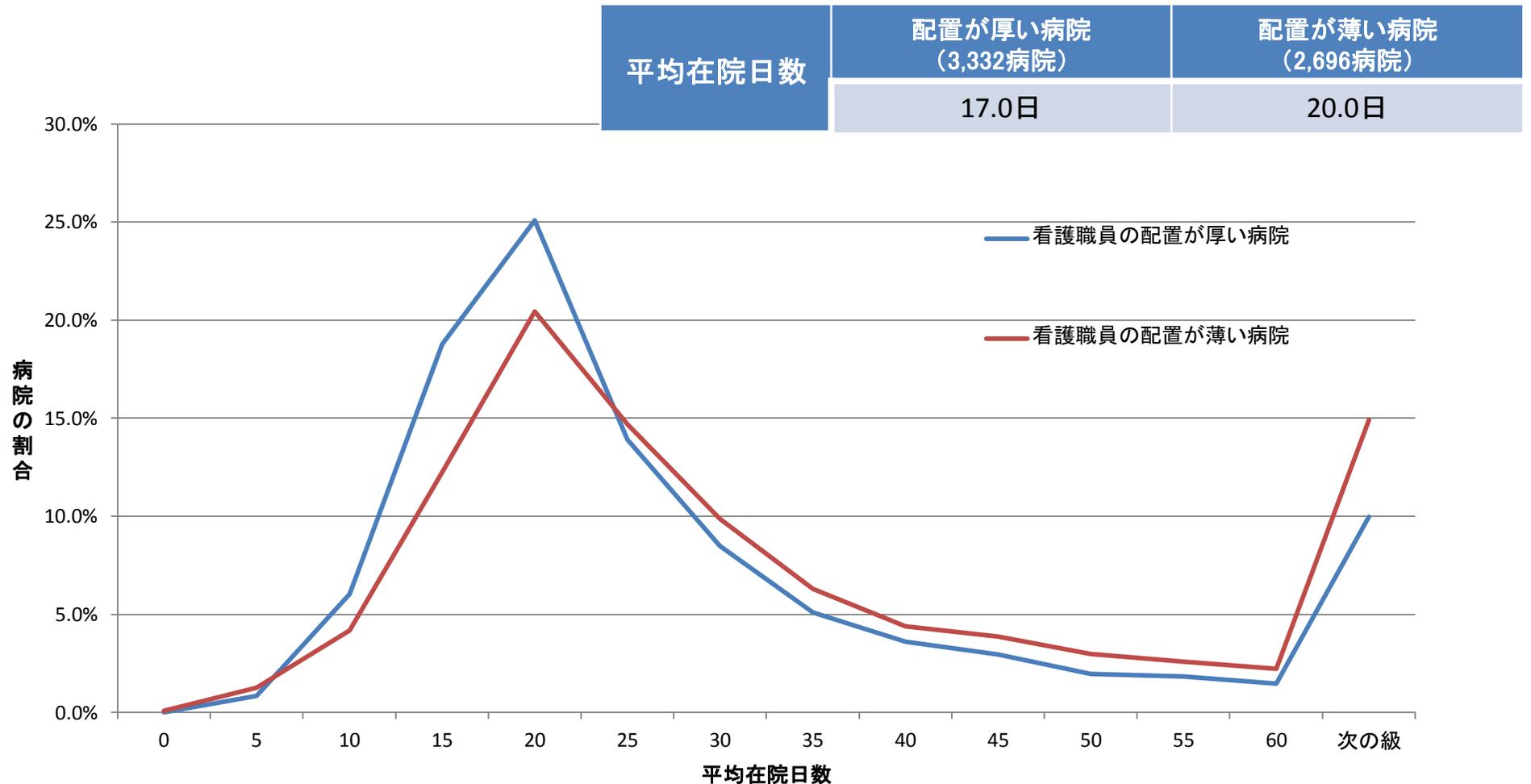
全医療圏における「配置が厚い病院」  
3,332病院

比較

# 平均在院日数別の病院の分布

(全医療圏における「配置が厚い病院」と「配置が薄い病院」で比較)

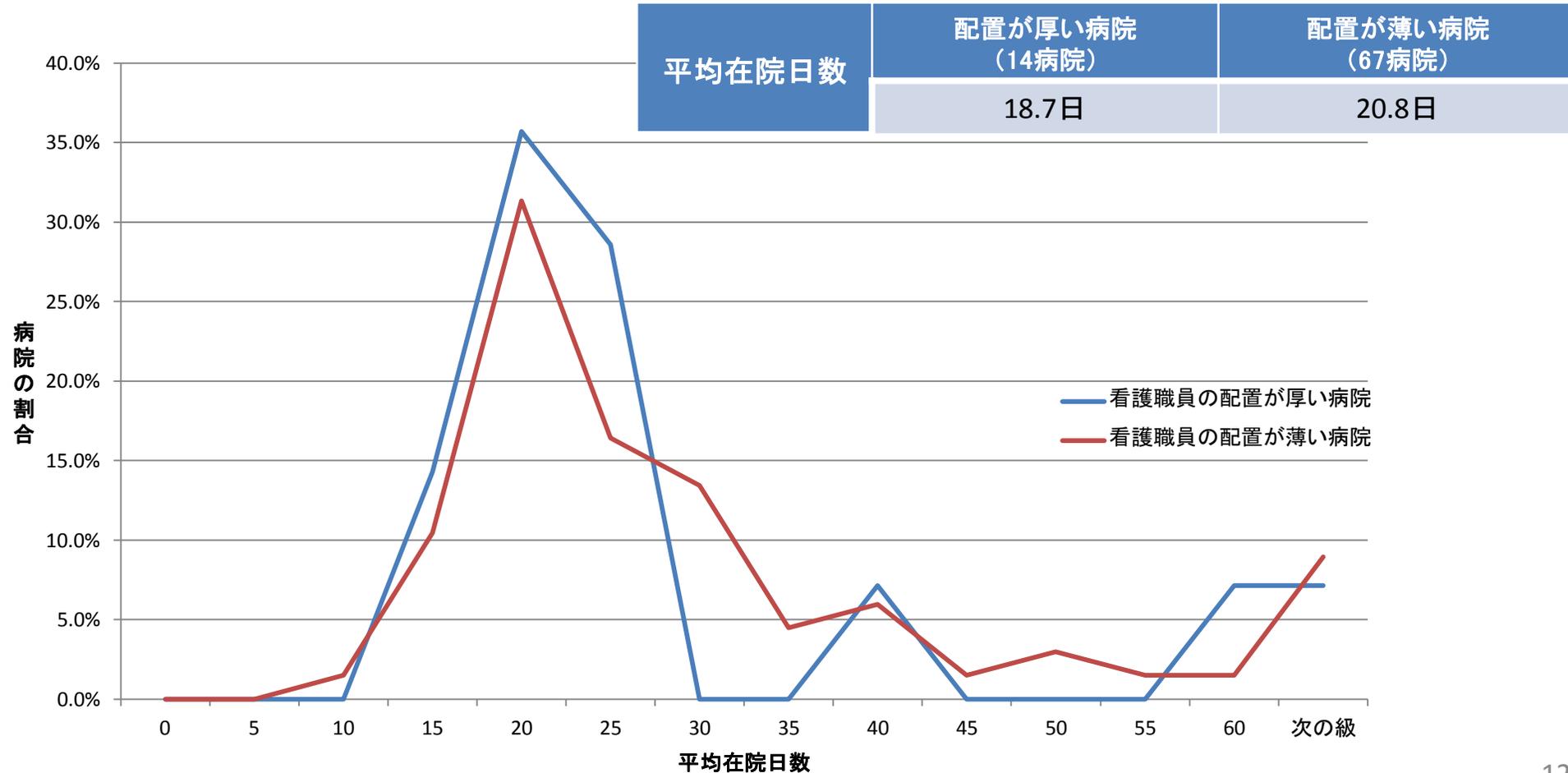
○全医療圏における「配置が薄い病院」の平均在院日数は20.0日であり、「配置が厚い病院」に比べて、3日長い。



# 平均在院日数別の病院の分布

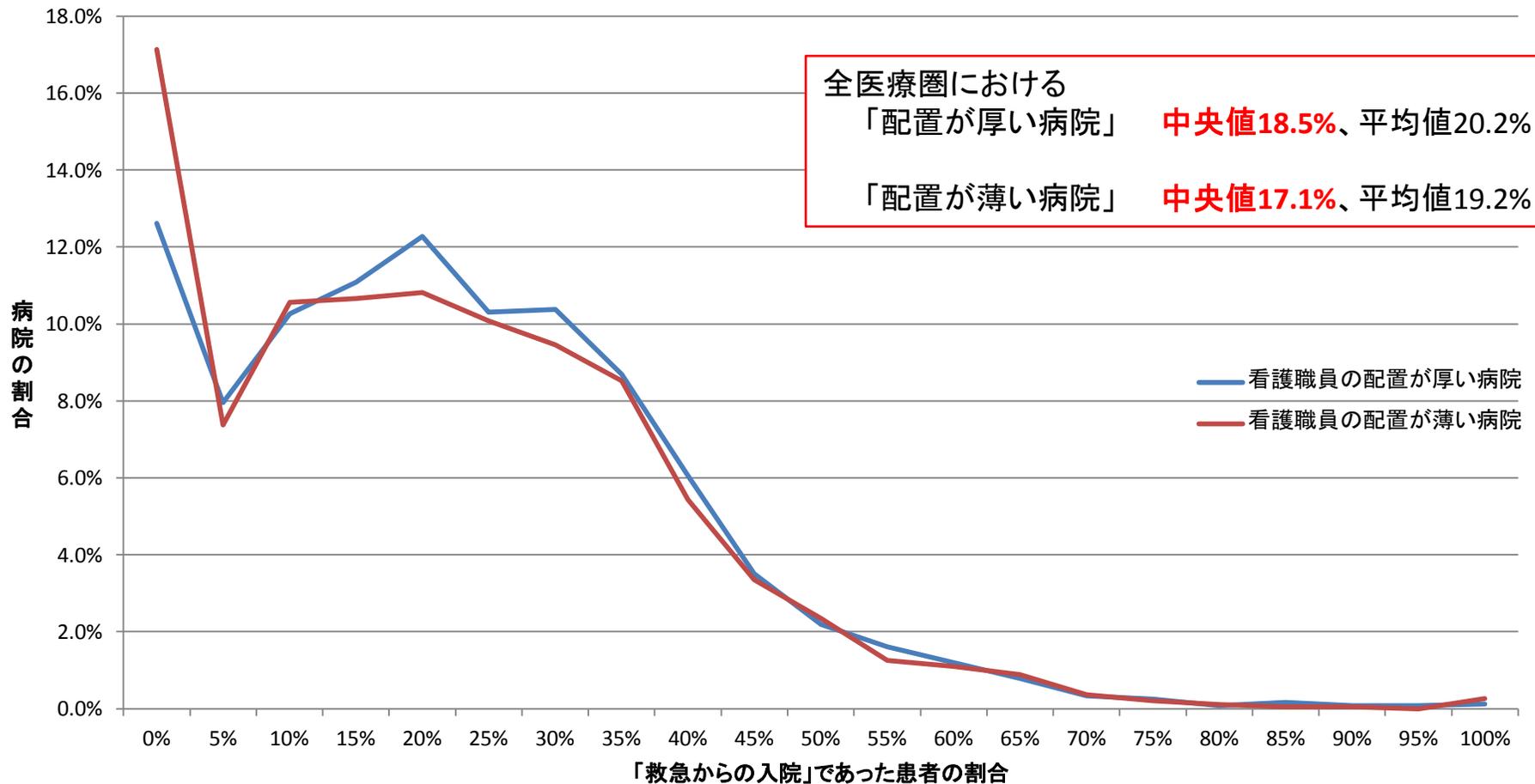
(人的資源が乏しい医療圏における「配置が厚い病院」と「配置が薄い病院」で比較)

○人的資源が乏しい医療圏における「配置が薄い病院」の平均在院日数は20.8日であり、「配置が厚い病院」に比べて、2.1日長い。



# 退院した患者のうち「救急からの入院」であった患者の割合 (全医療圏における「配置が厚い病院」と「配置が薄い病院」で比較)

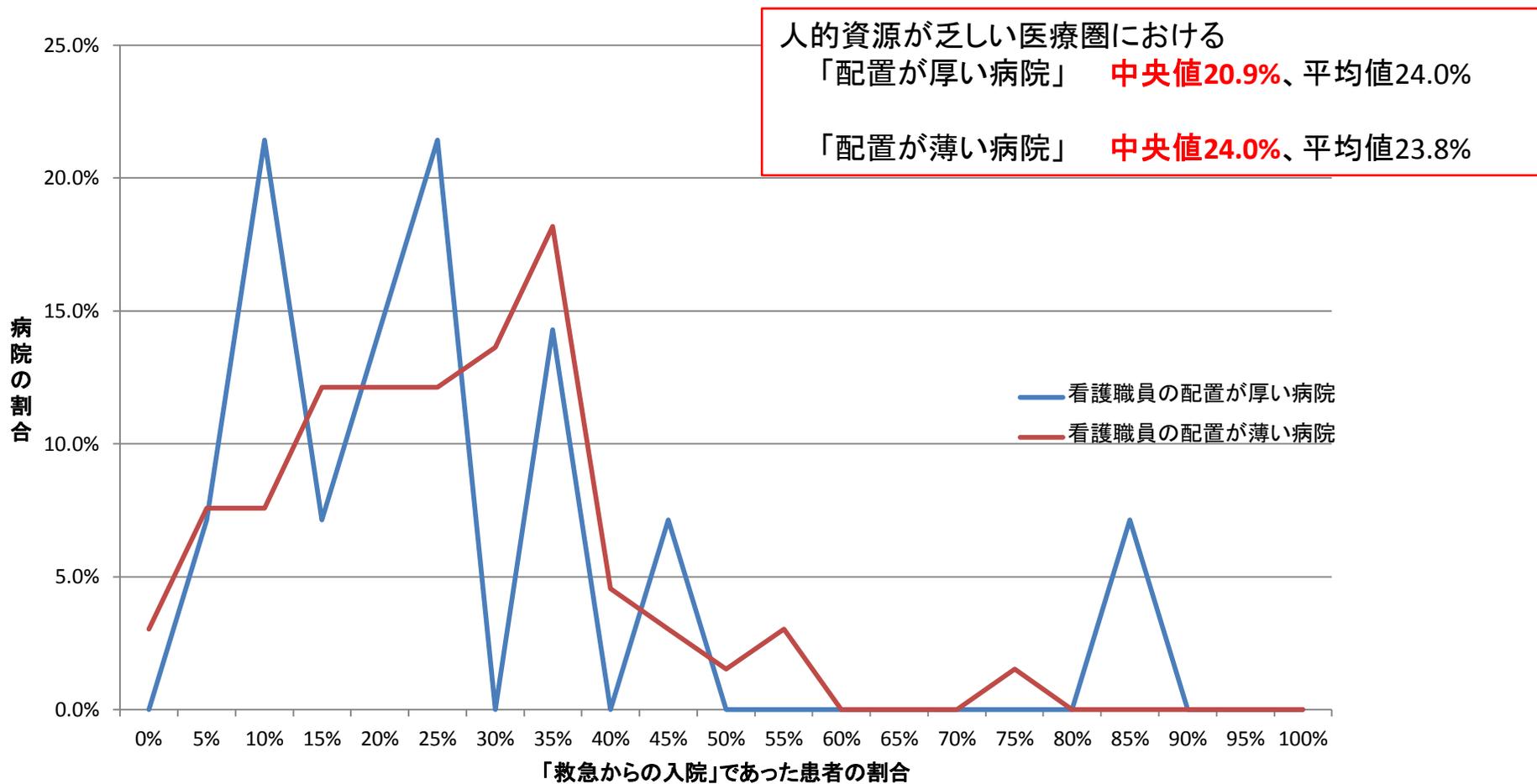
○一般病床から退院した患者のうち、救急からの入院であった患者の割合について、中央値で比較すると、「配置が薄い病院」は、「配置が厚い病院」と比べて、1.4%低い。



# 退院した患者のうち「救急からの入院」であった患者の割合

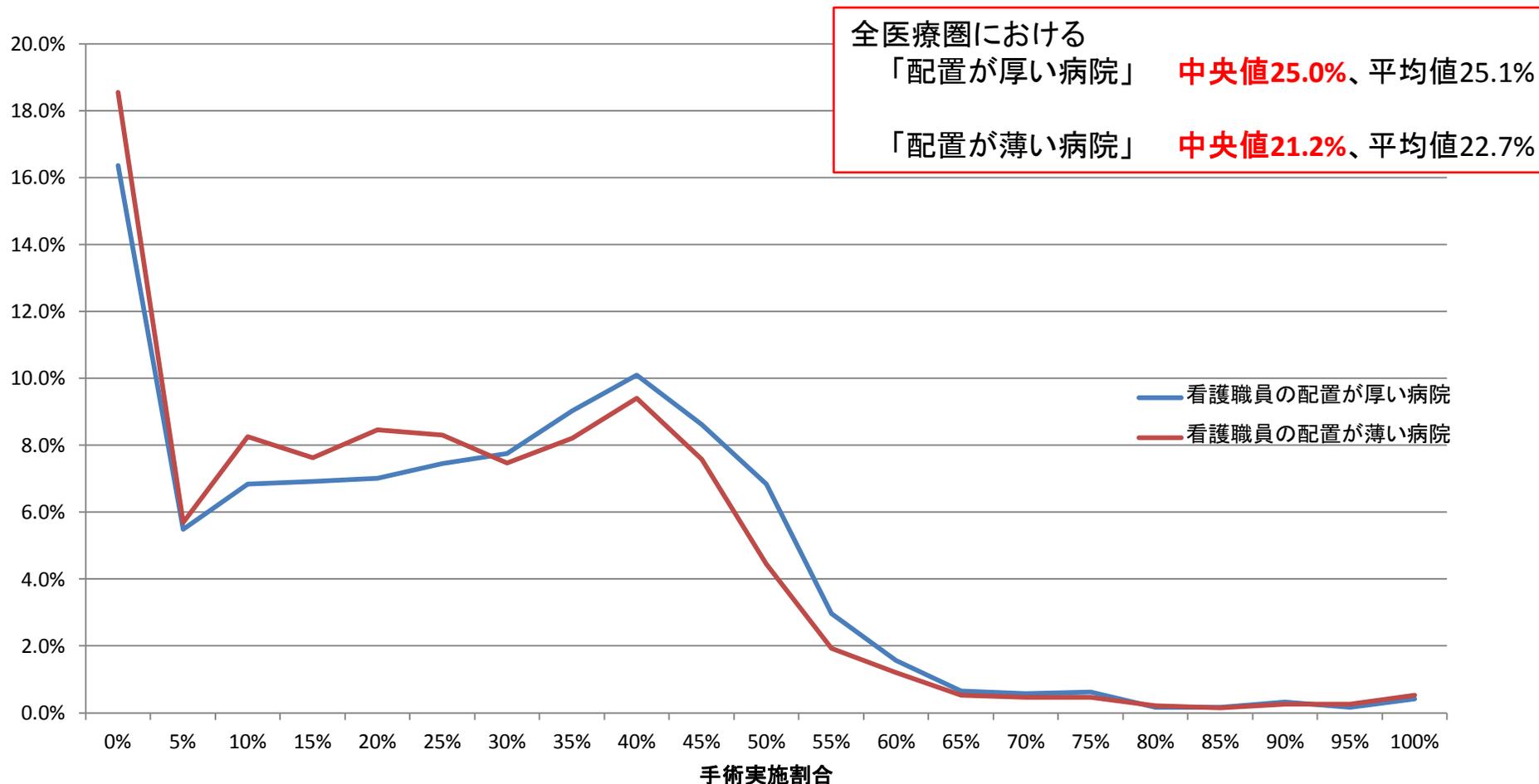
( 人的資源が乏しい医療圏における「配置が厚い病院」と「配置が薄い病院」で比較 )

- 人的資源が乏しい医療圏において、一般病床から退院した患者のうち、救急からの入院であった患者の割合について、中央値で比較すると、「配置が薄い病院」は、「配置が厚い病院」と比べて、3.1%高い。
- 人的資源が乏しい医療圏では、全医療圏と異なり、「配置が薄い病院」が救急医療をより担っている。



# 退院した患者のうち「手術を実施した患者」の割合 (全医療圏における「配置が厚い病院」と「配置が薄い病院」で比較)

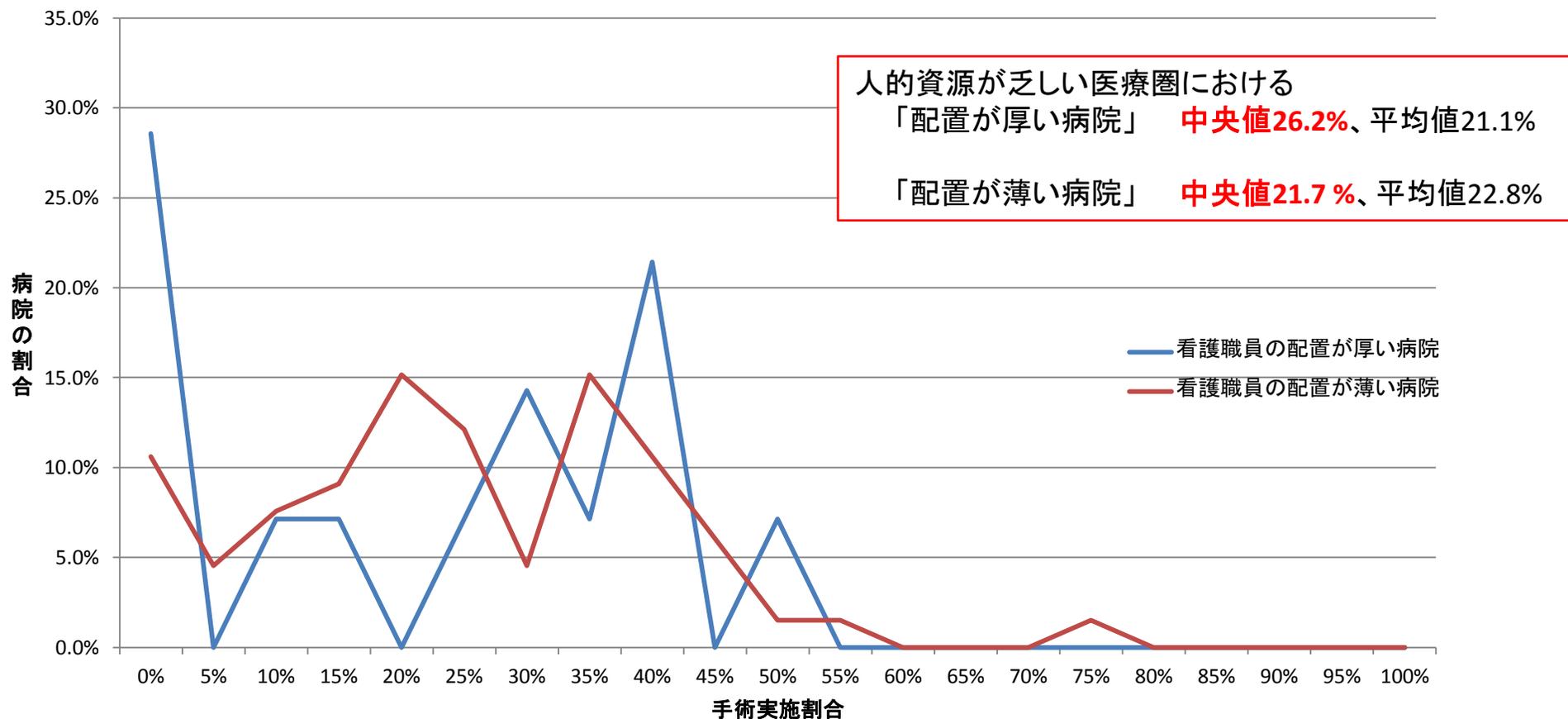
○一般病床から退院した患者のうち、手術を実施した患者の割合について、中央値で比較すると、「配置が薄い病院」は、「配置が厚い病院」と比べて、3.8%低い。



# 退院した患者のうち「手術を実施した患者」の割合

(人的資源が乏しい医療圏における「配置が厚い病院」と「配置が薄い病院」で比較)

- 人的資源が乏しい医療圏において、一般病床から退院した患者のうち、手術を実施した患者の割合について、中央値で比較すると、「配置が薄い病院」は、「配置が厚い病院」と比べて、4.5%低い。
- 人的資源が乏しい医療圏においても、全医療圏の傾向と同じように、「配置が厚い病院」がより多くの手術を実施している傾向にある。

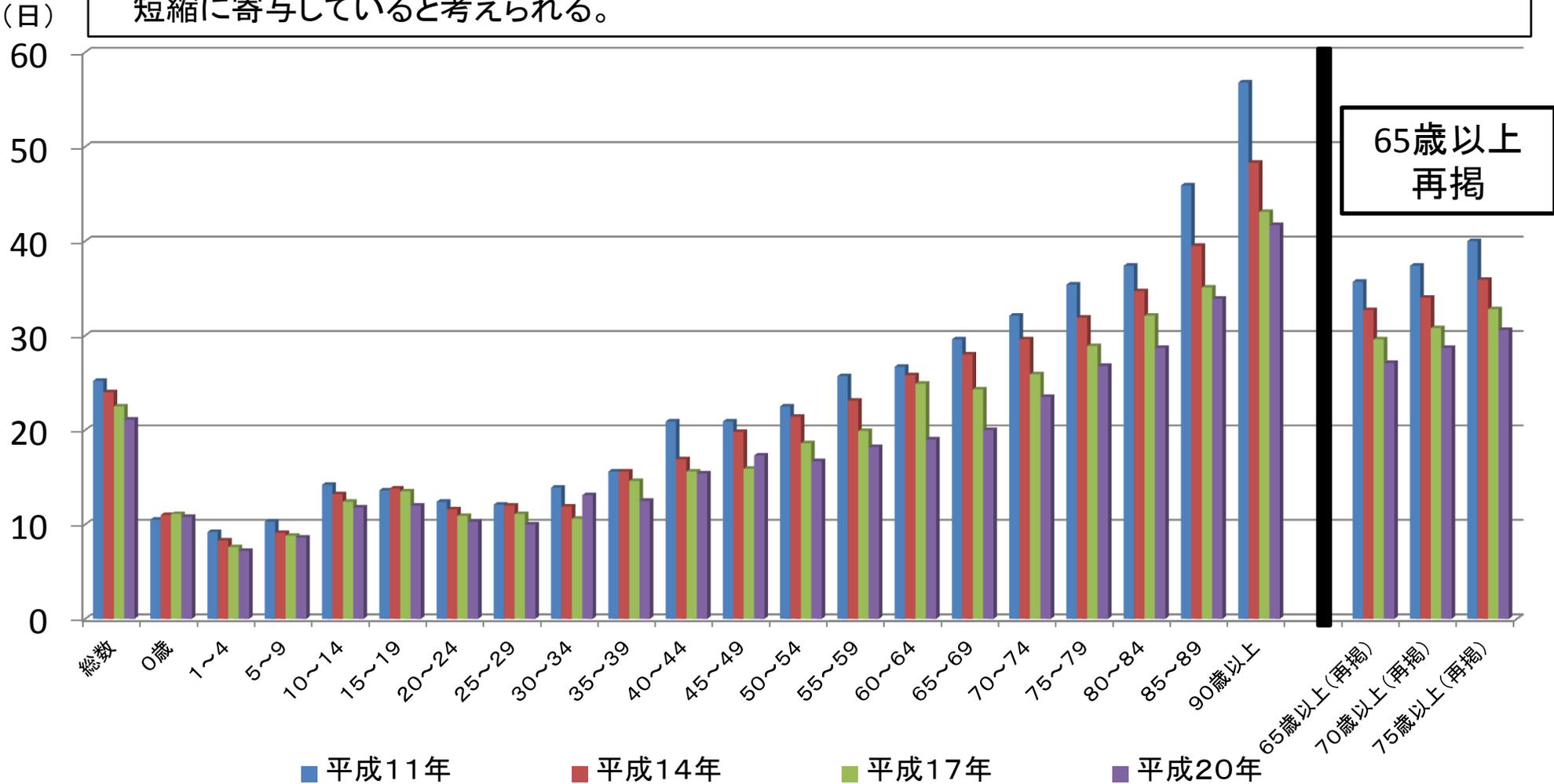




## 2. 高齢者に対する医療について

# 退院患者平均在院日数の年次推移（病院の一般病床について）

- 一般病床からの退院患者でみたときに、年齢が高いほど、退院患者平均在院日数は長くなる傾向にあるが、年次推移を見ると、各年齢階級とも短くなる傾向にある。
- 高齢者のほうが若年者に比べて、平均在院日数が短くなる傾向は大きく、全体の平均在院日数の短縮に寄与していると考えられる。

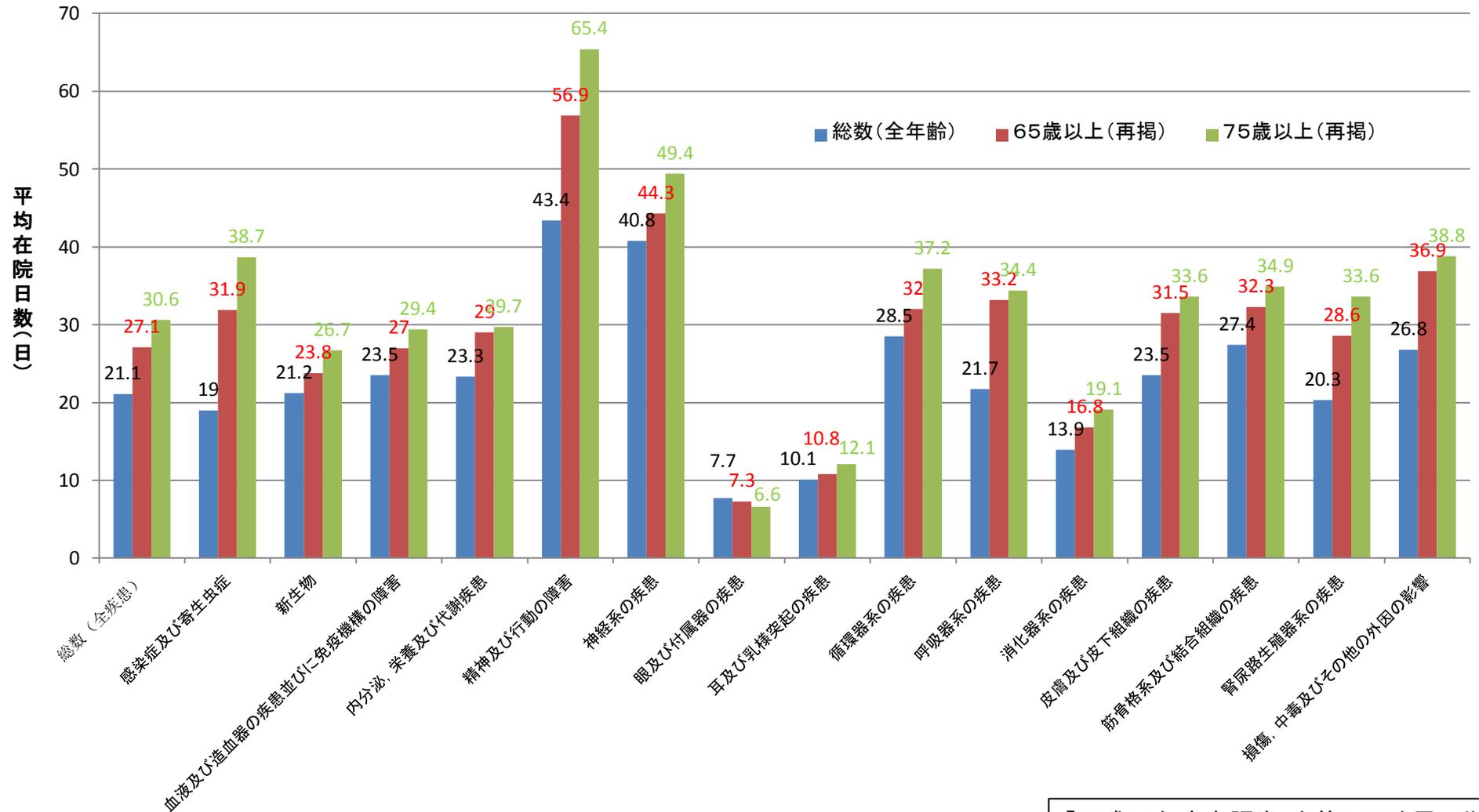


※一般病床のデータを比較しているが、平成11年は「その他の一般病床」のデータとなっている。

※※ここでいう「平均在院日数」は、「患者調査」のデータによる。

# 退院患者の年齢・疾患別の平均在院日数（病院の一般病床について）

○一般病床からの退院患者でみたときに、退院患者の平均在院日数は、一部の疾患を除いて、年齢が高いほど長くなっている。  
 ○全疾患でみた平均在院日数は21.1日だが、そのうち、75歳以上に限ると30.6日となっている。

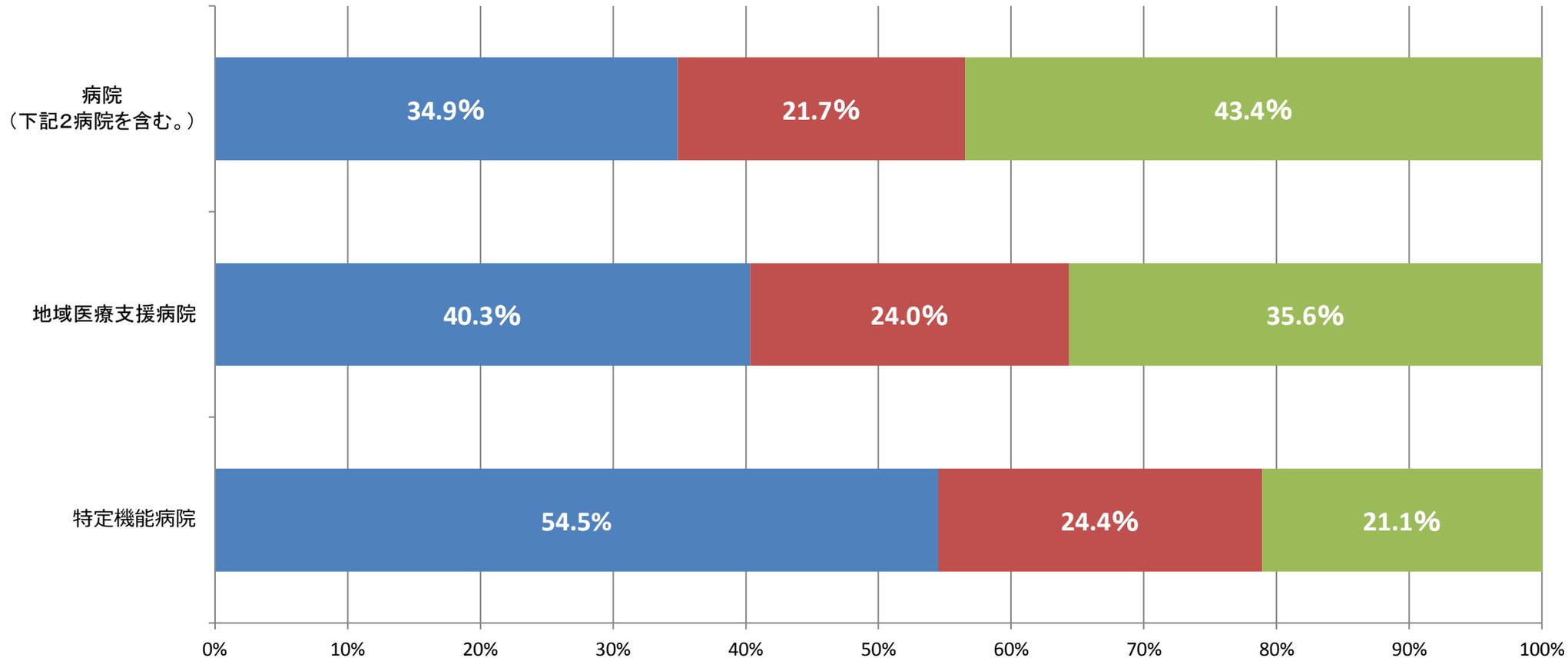


※ここでいう「平均在院日数」は、「患者調査」のデータによる。

# 年齢構成別入院患者数 ①

- 病院の一般病床に入院している患者のうち、65歳未満の患者の割合については、病院全体が34.9%、地域医療支援病院が40.3%、特定機能病院が54.5%であった。
- 病院全体に比べると、地域医療支援病院や特定機能病院の高齢者の割合は少なく、これらに含まれない病院が高齢者医療を相対的に多く担っていると考えられる。

■ 0～64歳 ■ 65～74歳 ■ 75歳～

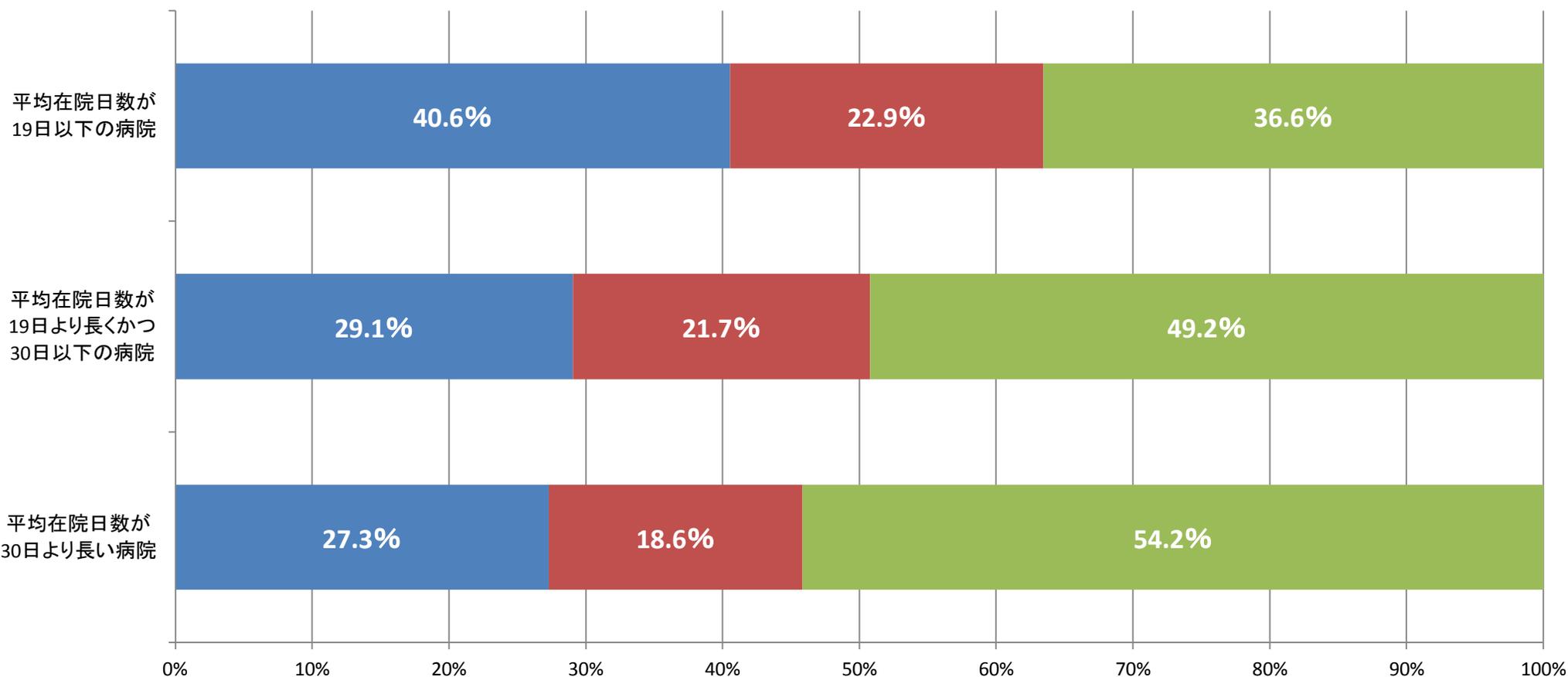


## 年齢構成別入院患者数 ②

○病院の一般病床に入院している患者のうち、65歳未満の患者の割合については、平均在院日数が19日以下の病院が40.6%、19日より長くかつ30日以下の病院が29.1%、30日より長い病院が27.3%であった。

○平均在院日数が長い病院では、高齢者の割合が高い。

■ 0～64歳 ■ 65～74歳 ■ 75歳～



※ここでいう「平均在院日数」は、「患者調査」のデータによる。

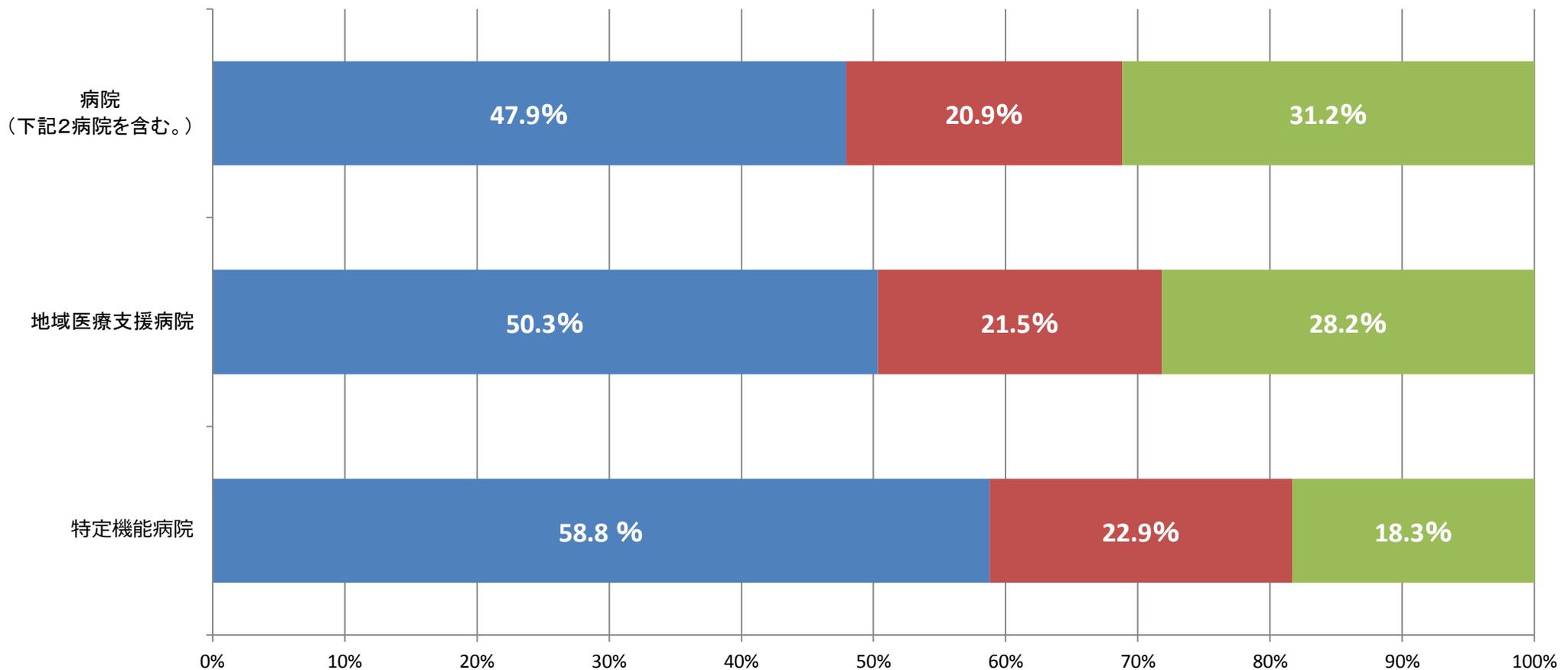
「平成20年患者調査」を基に医政局で作成

# 年齢構成別退院患者数 ①

○病院の一般病床から退院した患者のうち、65歳未満の患者の割合については、病院全体が47.9%、地域医療支援病院が50.3%、特定機能病院が58.8%であった。

○病院全体に比べると、地域医療支援病院や特定機能病院の高齢者の割合は少なく、これらに含まれない病院が高齢者医療を相対的に多く担っていると考えられる。

■ 0～64歳 ■ 65～74歳 ■ 75歳～

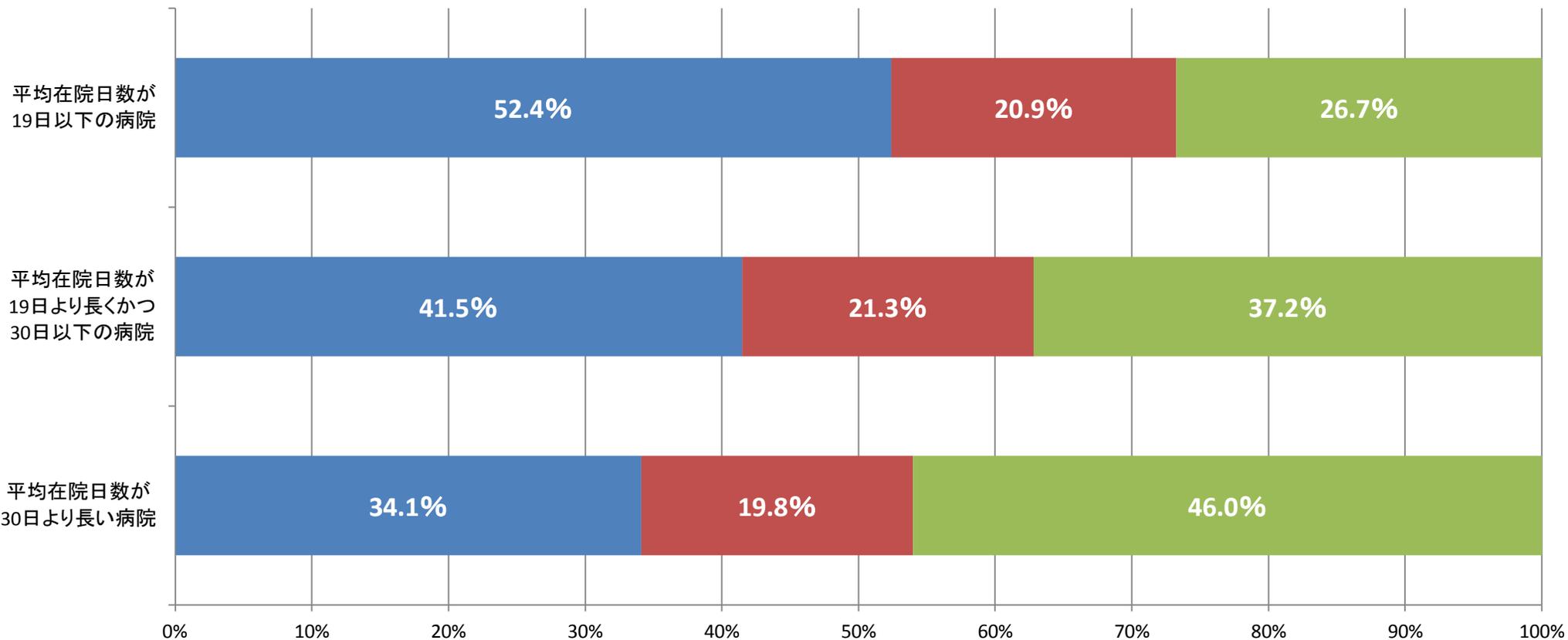


## 年齢構成別退院患者数 ②

○病院の一般病床から退院した患者のうち、65歳未満の患者の割合については、平均在院日数が19日以下の病院が52.4%、19日より長くかつ30日以下の病院が41.5%、平均在院日数が30日より長い病院が34.1%であった。

○平均在院日数が長い病院では、高齢者の割合が高い。

■ 0～64歳 ■ 65～74歳 ■ 75歳～



※ここでいう「平均在院日数」は、「患者調査」のデータによる。

「平成20年患者調査」を基に医政局で作成

**3. 高齢者の割合が高い(75歳以上人口割合が高い)  
地域における医療について**

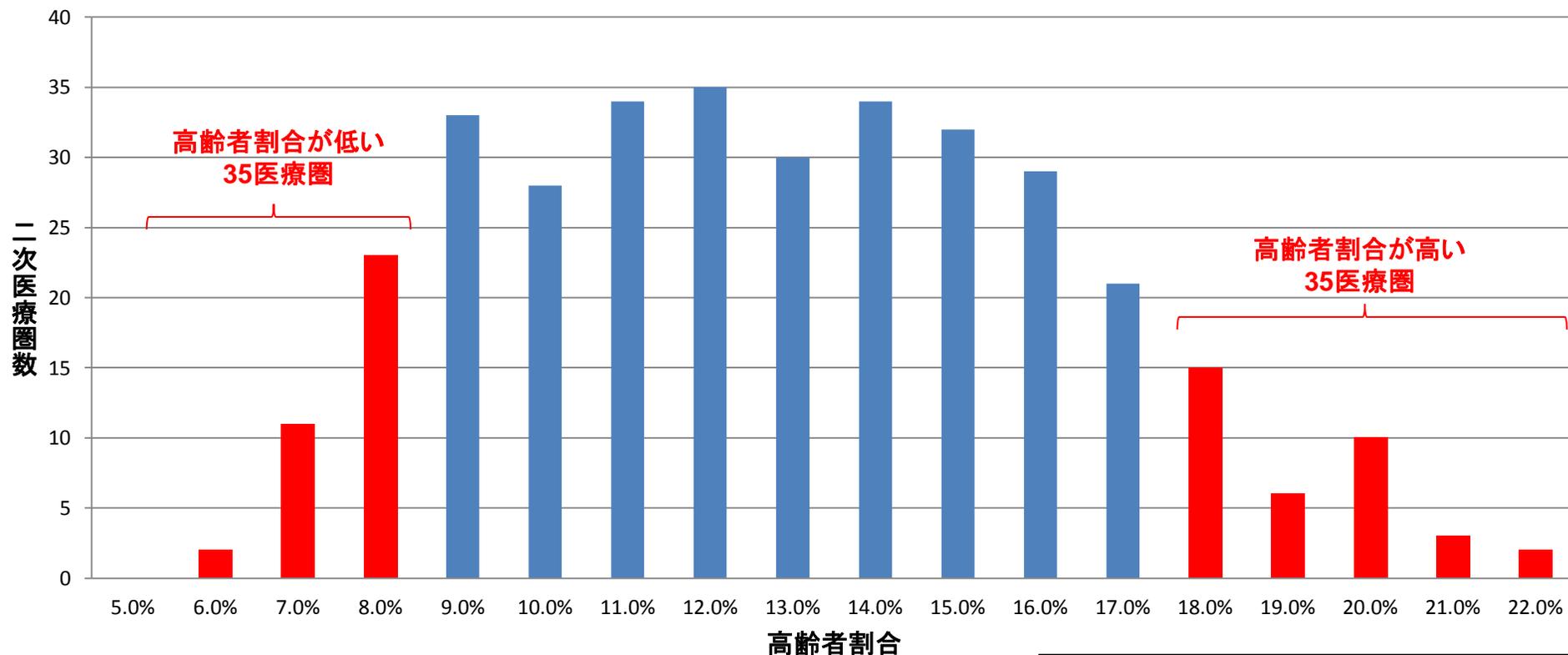
# 二次医療圏別高齢者割合

○全人口で見ると、高齢者(75歳以上)割合は10.0%。(平成20年住民基本台帳より)

○二次医療圏別にみた場合、

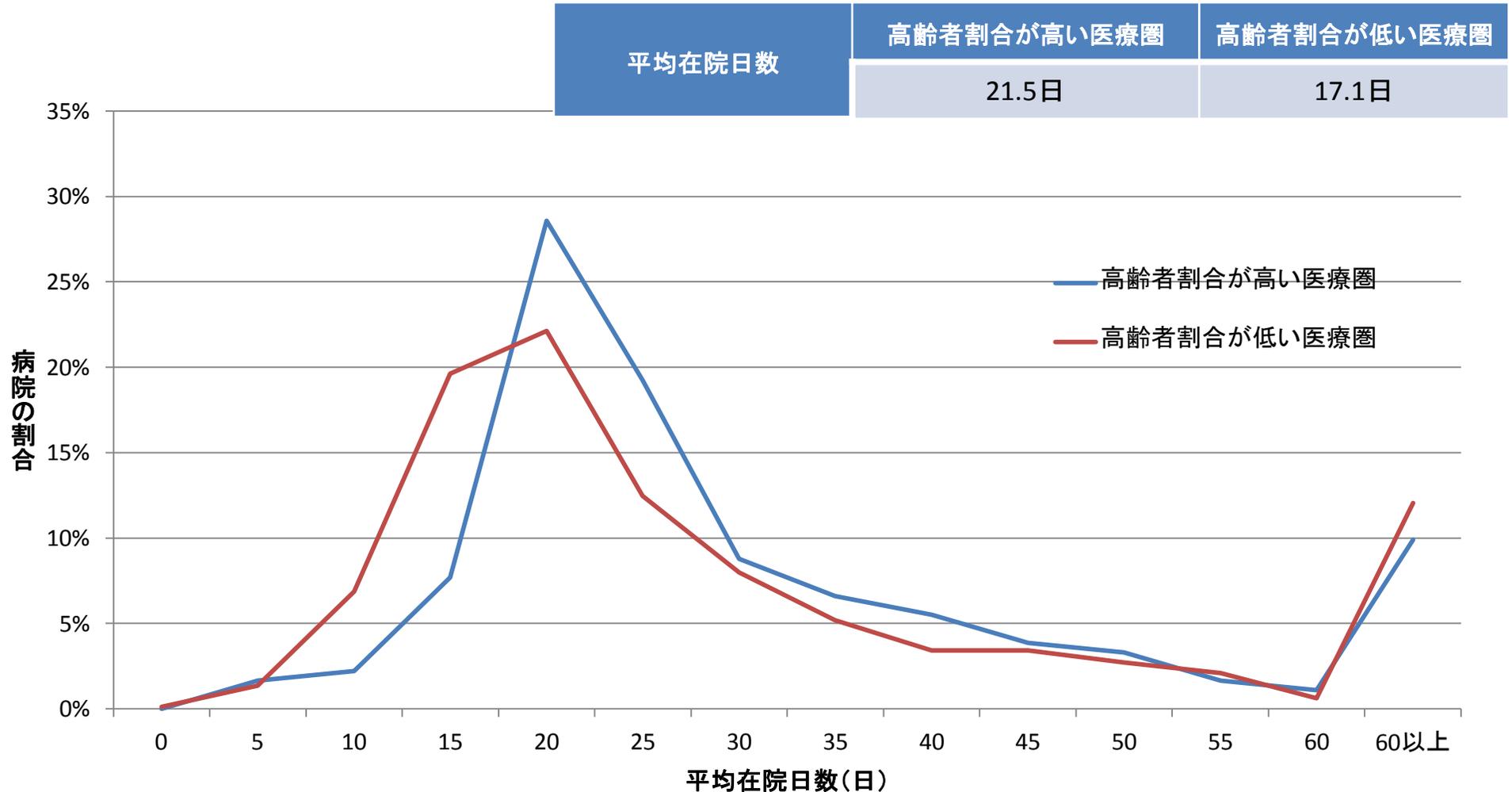
- ・高齢者割合が高い上位10%の35医療圏では、高齢者割合17.0%~21.8%
- ・高齢者割合の低い上位10%の35医療圏では、高齢者割合5.8%~7.9%

と地域によって差がある。



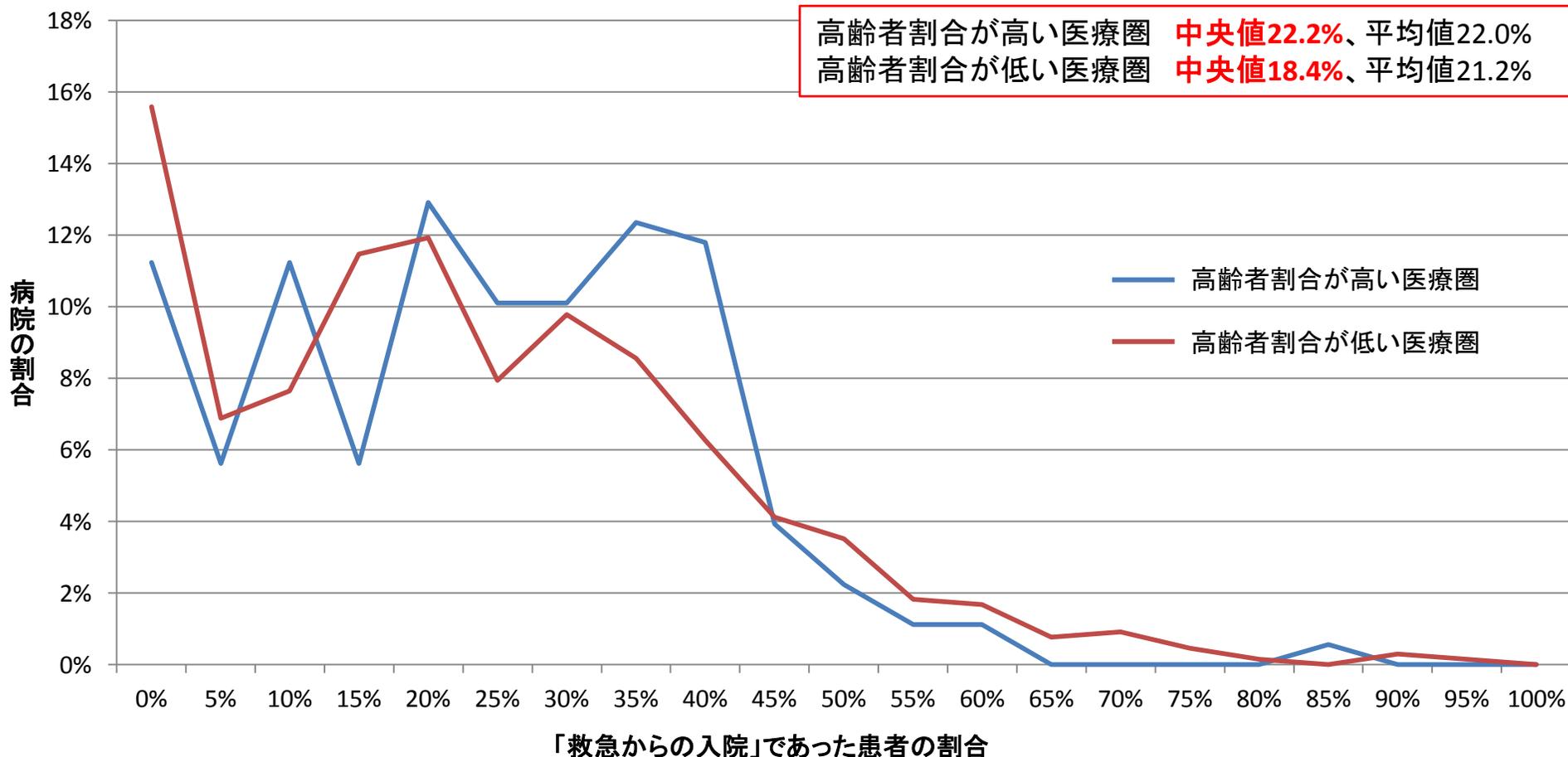
# 二次医療圏別高齢者割合別の平均在院日数

○二次医療圏別にみた場合、一般病床の平均在院日数について、高齢者割合が低い医療圏は、高い医療圏に比べて、平均在院日数が約4日短い。



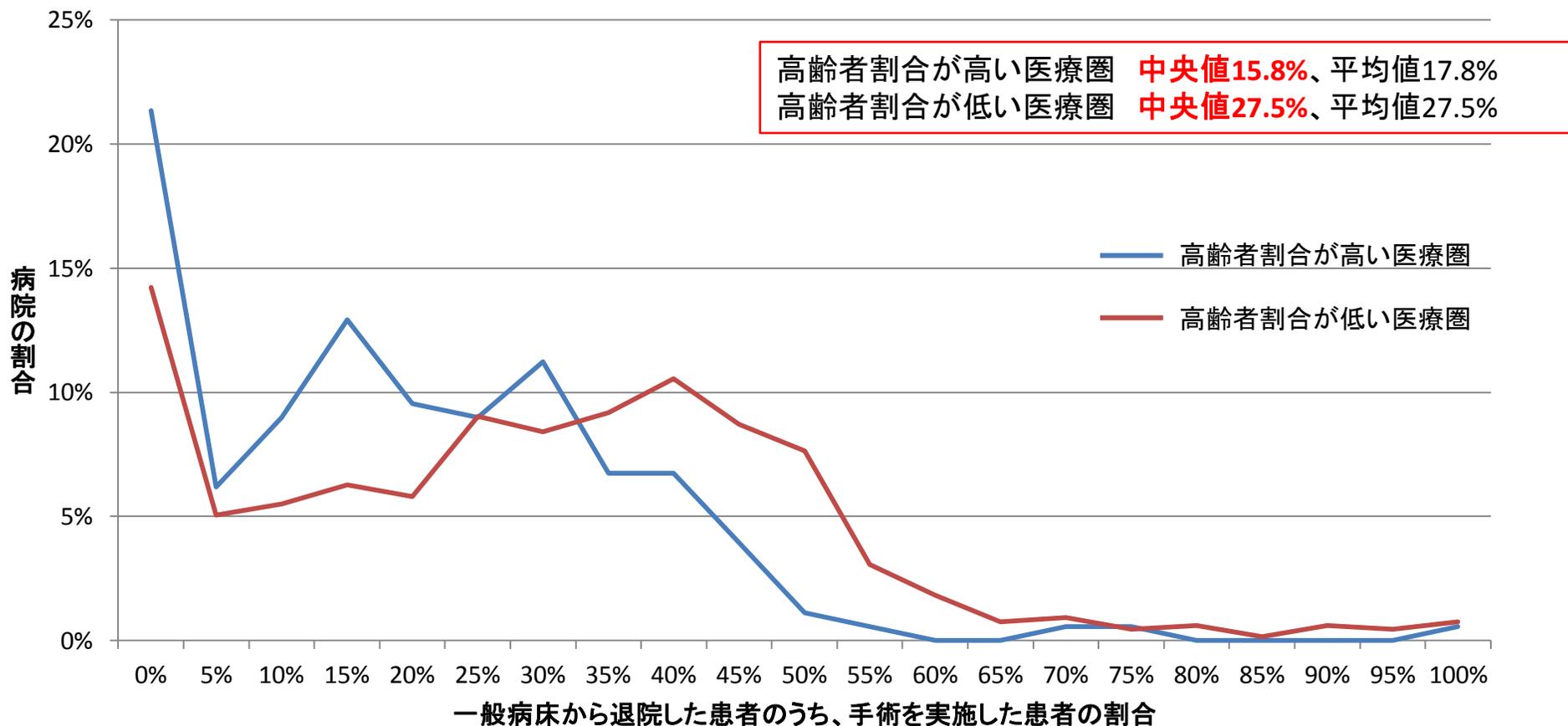
# 二次医療圏別高齢者割合別の「救急からの入院」患者の割合

- 二次医療圏別にみた場合、一般病床からの退院患者のうち、「救急からの入院」であった患者の割合について、中央値と比較すると、高齢者割合が高い医療圏は、低い医療圏に比べて、3.8%高い。
- 高齢者割合が高い地域では、より救急医療の必要性が高いと考えられる。



# 二次医療圏別高齢者割合別の手術の実施割合

○二次医療圏別にみた場合、一般病床からの退院患者のうち、手術を実施した患者の割合について、中央値と比較すると、高齢者割合が低い医療圏は、高い医療圏に比べて、11.7%高い。



# 高齢者割合別看護配置別の平均在院日数

- 二次医療圏別にみた場合、一般病床の平均在院日数について、**高齢者割合が高い医療圏**の中でも、看護職員の「配置が厚い病院(※1)」は、看護職員の「配置が薄い病院(※2)」に比べて、平均在院日数が**1日短い**。
- 二次医療圏別にみた場合、一般病床の平均在院日数について、**高齢者割合が低い医療圏**の中でも、「配置が厚い病院」は、「配置が薄い病院」に比べて、平均在院日数が**2.3日短い**。

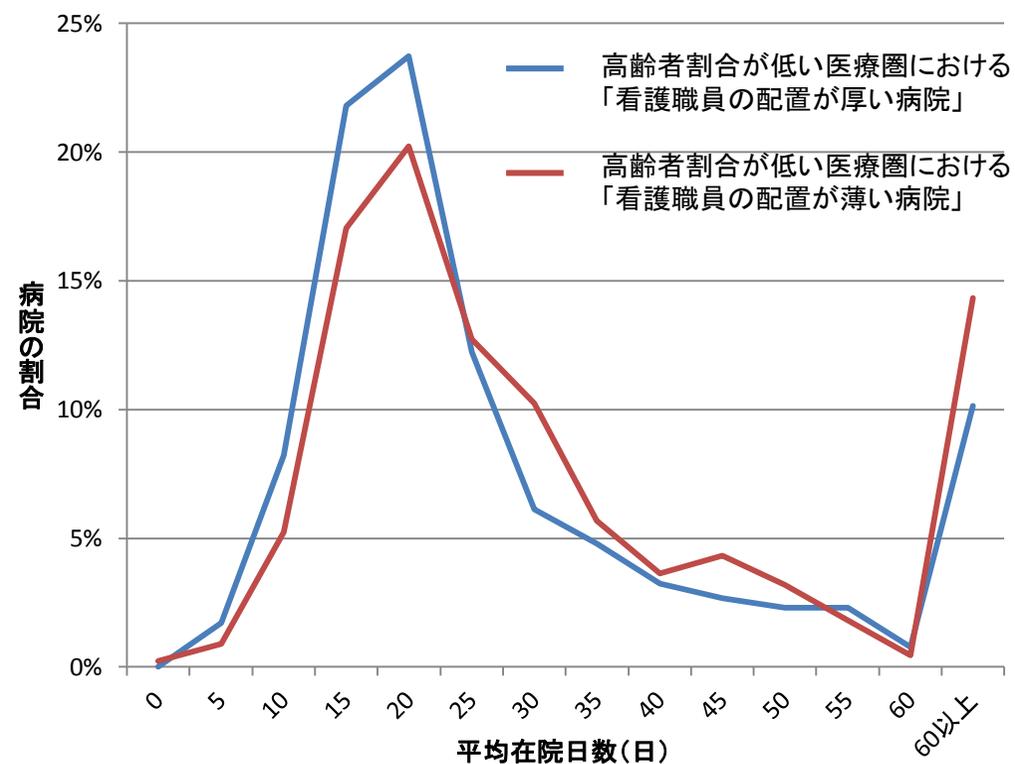
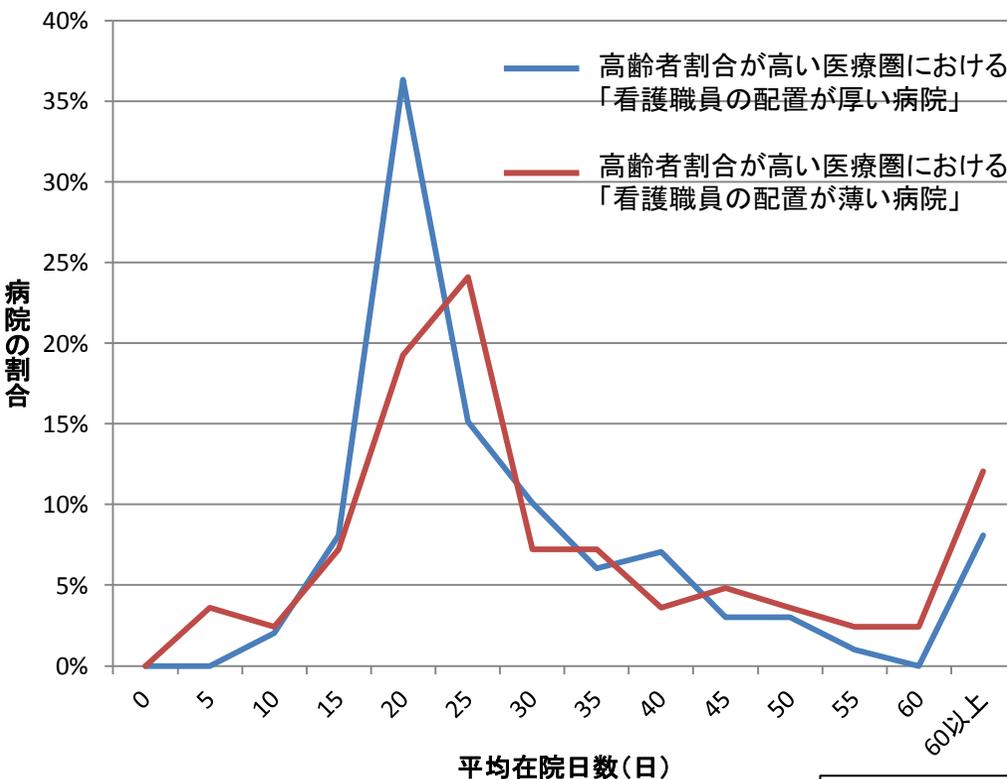
※1 一般病床100床当たりの病棟看護職員常勤換算数が40人以上の病院 ※2 一般病床100床当たりの病棟看護職員常勤換算数が40人未満の病院

## 高齢者割合が高い医療圏

平均在院日数	配置が厚い病院	配置が薄い病院
	21.1日	22.1日

## 高齢者割合が低い医療圏

平均在院日数	配置が厚い病院	配置が薄い病院
	16.2日	18.5日

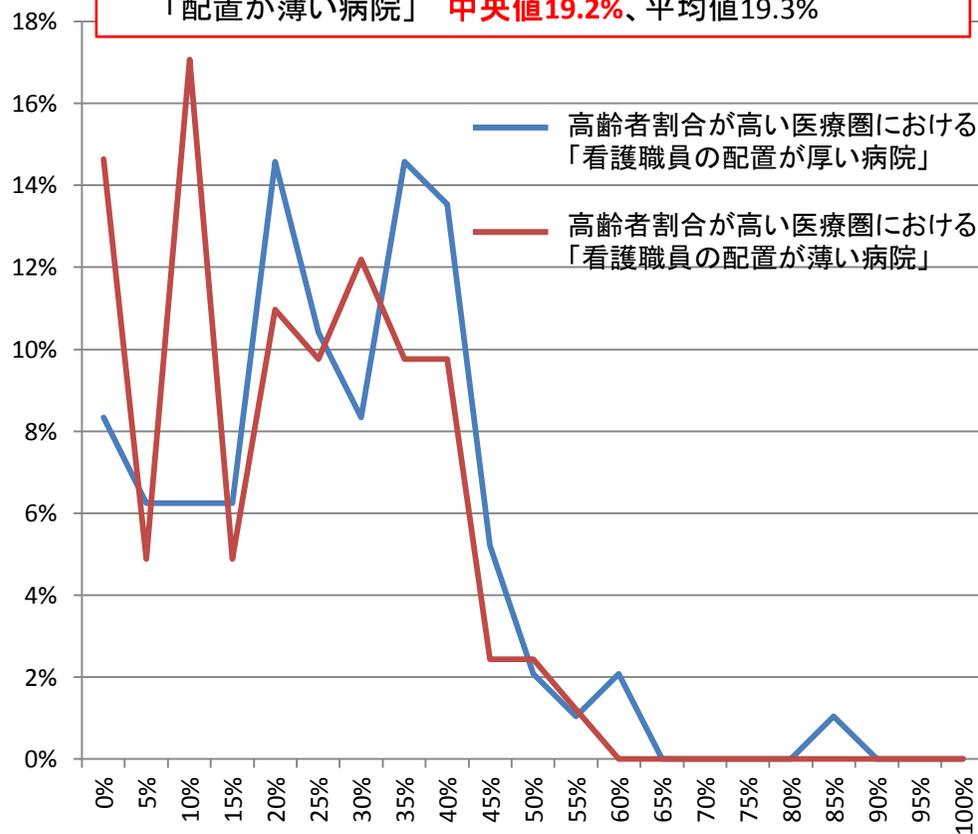


# 高齢者割合別看護配置別の「救急からの入院」患者の割合

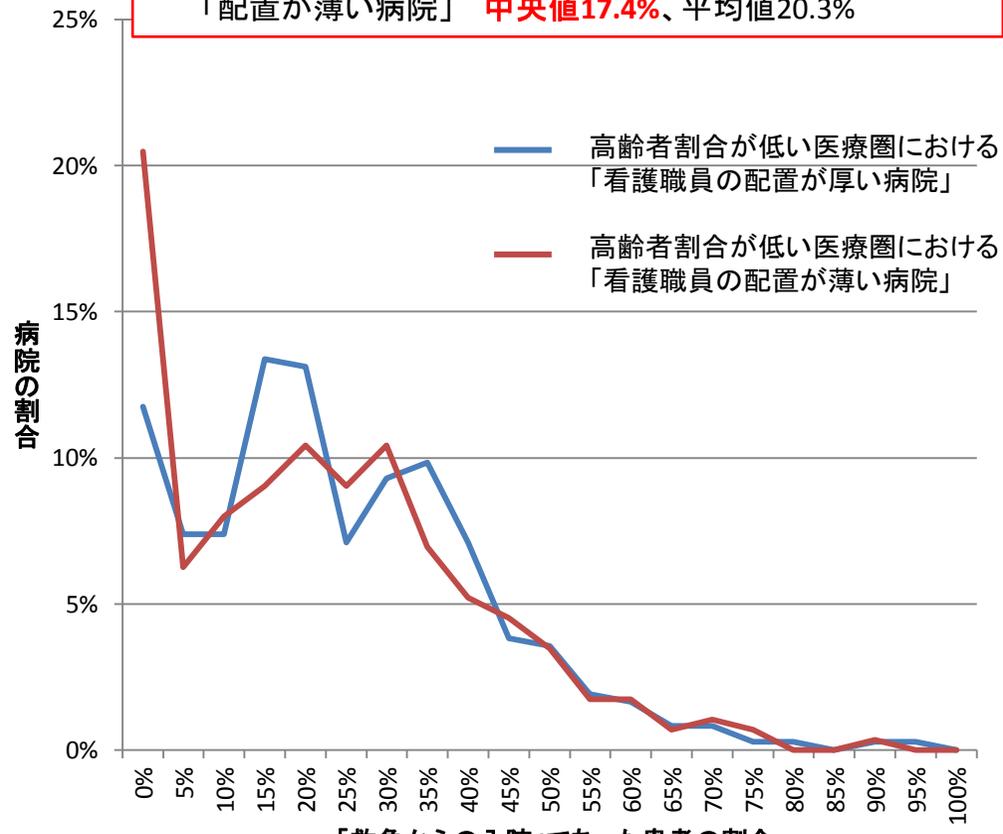
○一般病床からの退院患者のうち、「救急からの入院」であった患者の割合について、中央値で比較すると、**高齢者割合が高い医療圏**の中でも、「配置が厚い病院」は「配置が薄い病院」に比べて**5.1%高い**。

○一般病床からの退院患者のうち、「救急からの入院」であった患者の割合について、中央値で比較すると、**高齢者割合が低い医療圏**の中でも、「配置が厚い病院」は「配置が薄い病院」に比べて**1.5%高い**。

高齢者割合が高い医療圏における  
 「配置が厚い病院」 **中央値24.3%**、平均値24.3%  
 「配置が薄い病院」 **中央値19.2%**、平均値19.3%



高齢者割合が低い医療圏における  
 「配置が厚い病院」 **中央値18.9%**、平均値22.0%  
 「配置が薄い病院」 **中央値17.4%**、平均値20.3%



「救急からの入院」であった患者の割合

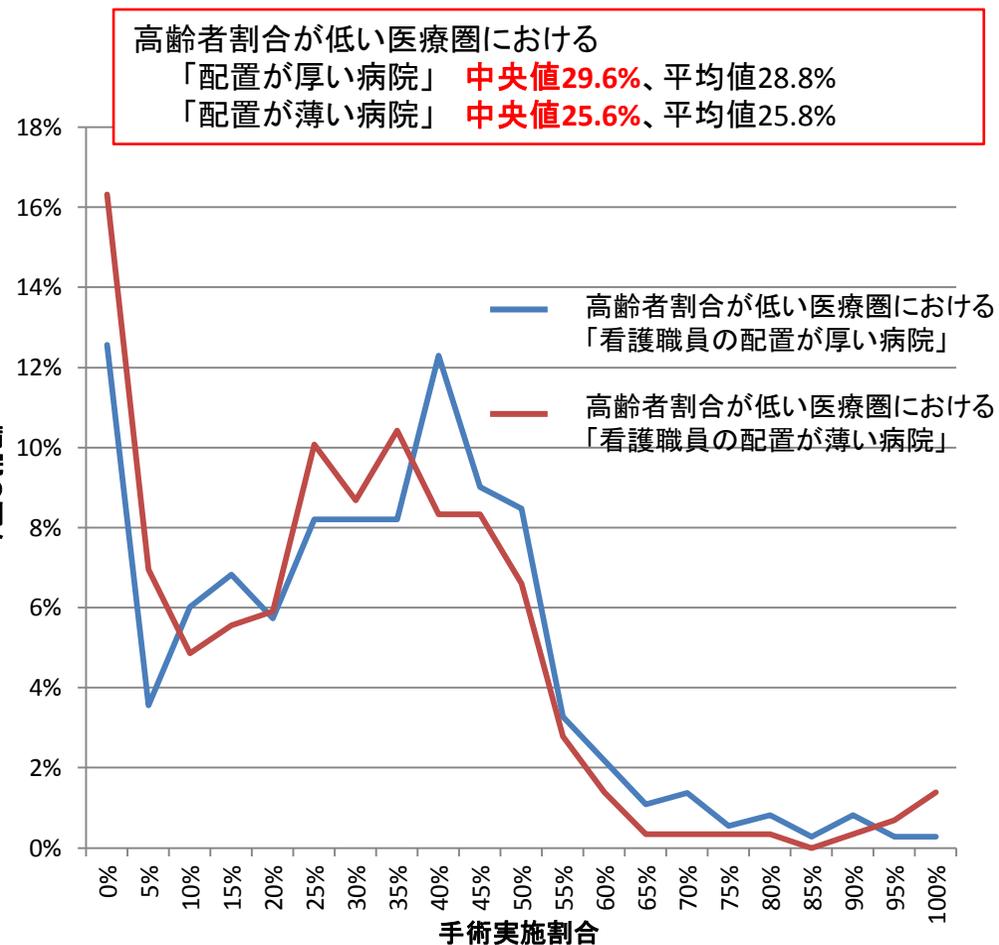
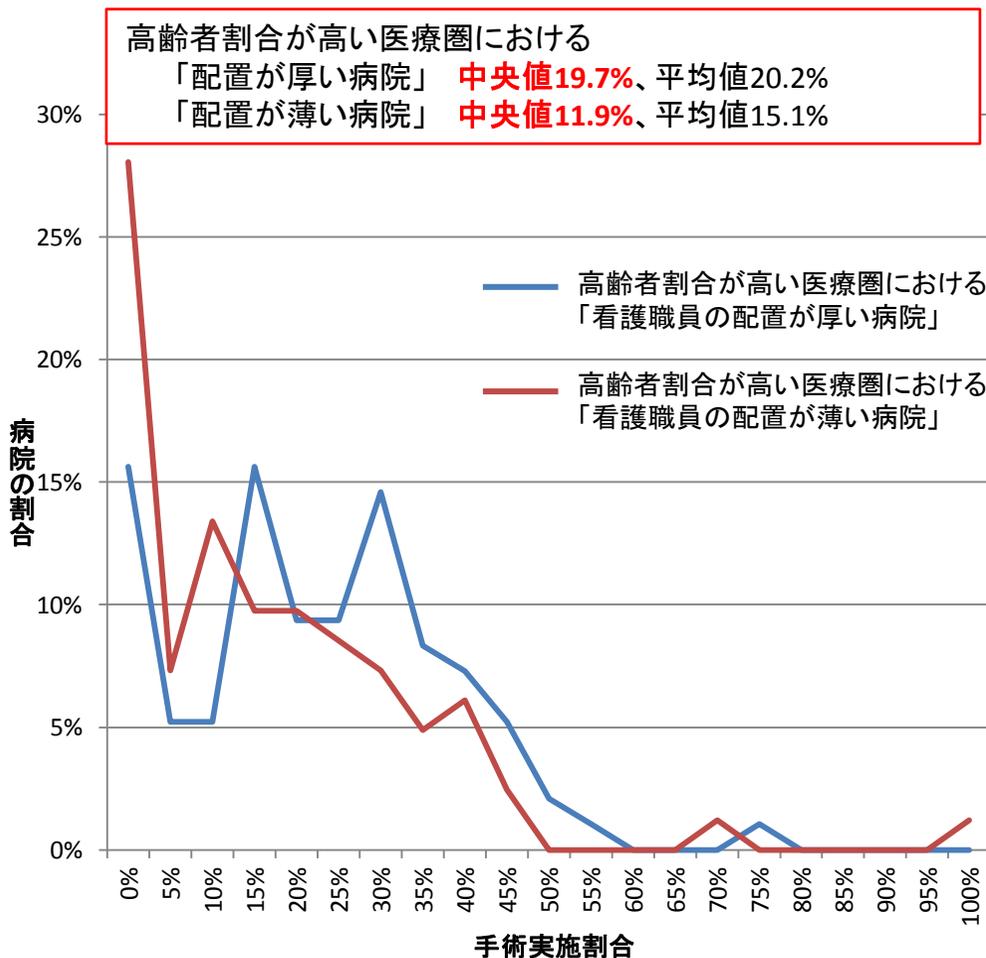
「救急からの入院」であった患者の割合

「平成20年住民基本台帳」「平成20年病院報告」「平成20年医療施設静態調査」「平成20年患者調査」を基に医政局で作成

# 高齢者割合別看護配置別の手術の実施割合

○一般病床からの退院患者のうち、手術を実施した患者の割合について、中央値と比較すると、**高齢者割合が高い医療圏**の中でも、「配置が厚い病院」は、「配置が薄い病院」に比べて、**7.8%高い**。

○一般病床からの退院患者のうち、手術を実施した患者の割合について、中央値と比較すると、**高齢者割合が低い医療圏**の中でも、「配置が厚い病院」は、「配置が薄い病院」に比べて、**4.0%高い**。





## 4. 診療科数ごとの医療の実施内容について

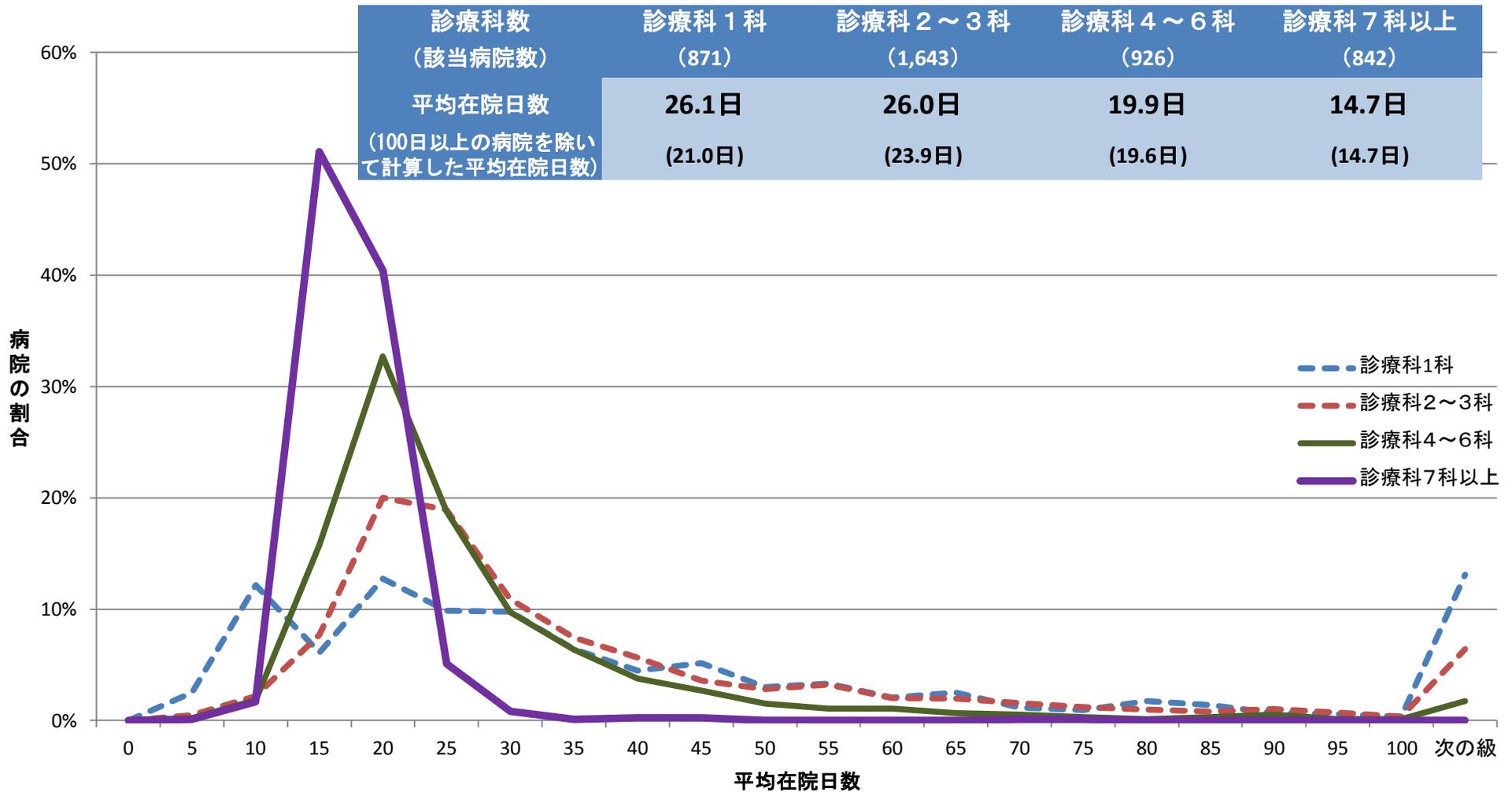
# 診療科の分類の方法について

- 「平成20年医療施設静態調査」で列挙された43診療科について、基本的な診療科と考えられる16分野に分類。
- 各病院の基本的な診療科ごとに、在院患者が3人以上である診療科を、当該病院の稼働診療科と想定。

基本的な診療科 (在院患者が3人以上を 稼働診療科と想定)	「平成20年医療施設静態調査」で列挙された43診療科					
内科	内科 糖尿病内科	呼吸器内科 血液内科	循環器内科 アレルギー科	消化器内科 リウマチ科	腎臓内科 感染症内科	神経内科
皮膚科	皮膚科					
小児科	小児科	小児外科				
精神科	精神科	心療内科				
外科	外科 肛門外科	呼吸器外科 美容外科	循環器外科	乳腺外科	気管食道外科	消化器外科
泌尿器科	泌尿器科					
脳神経外科	脳神経外科					
整形外科	整形外科					
形成外科	形成外科					
眼科	眼科					
耳鼻いんこう科	耳鼻いんこう科					
産婦人科	産婦人科	産科	婦人科			
リハビリテーション科	リハビリテーション科					
検査等	放射線科	麻酔科	病理診断科	臨床検査科		
救急科	救急科					
歯科	歯科	矯正歯科	小児歯科	歯科口腔外科		

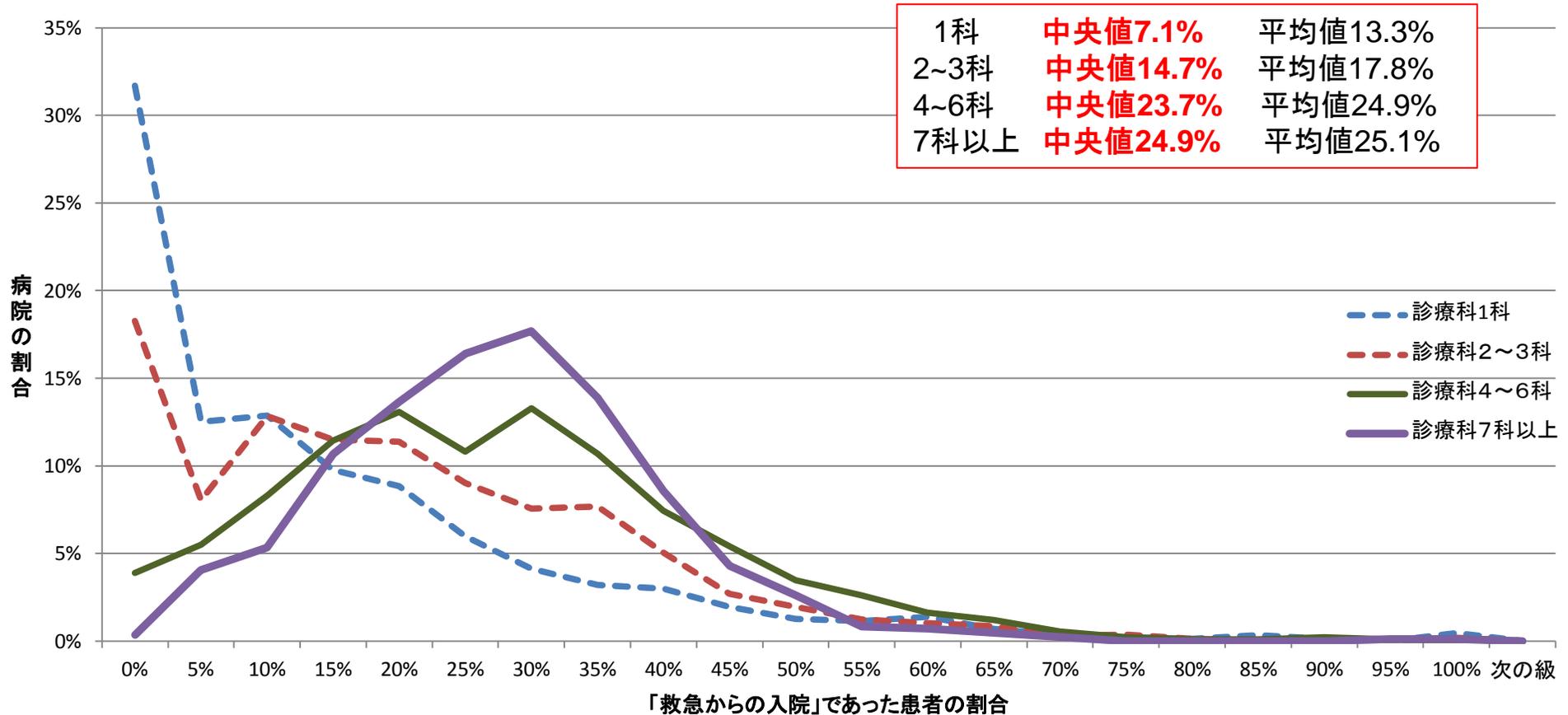
# 診療科数ごとの平均在院日数別の病院の分布

○在院患者が3人以上である診療科数で比較したところ、診療科が1科では26.1日、2～3科で26.0日、4～6科で19.9日、7科以上で14.7日と、診療科数が多い病院ほど平均在院日数は短い傾向にある。



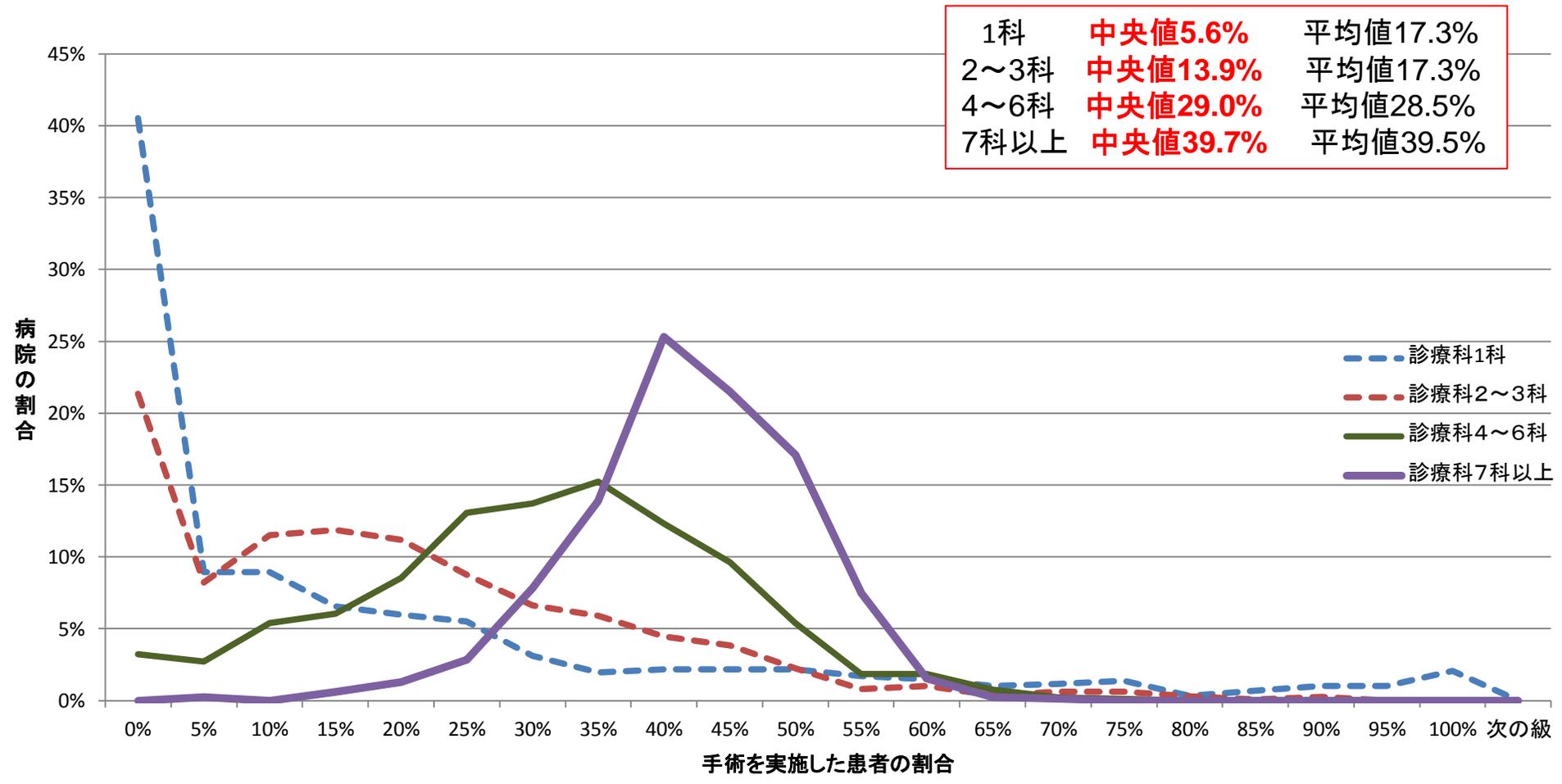
# 退院した患者のうち「救急からの入院」であった患者の割合（診療科数別）

○在院患者が3人以上である診療科数で比較したところ、一般病床からの退院患者のうち、救急からの入院であった患者の割合について、中央値で比較すると、診療科が1科では7.1%、2~3科で14.7%、4~6科で23.7%、7科以上で24.9%と、診療科数が多い病院ほど救急からの入院患者の割合は高い。



# 退院した患者のうち「手術を実施した患者」の割合（診療科数別）

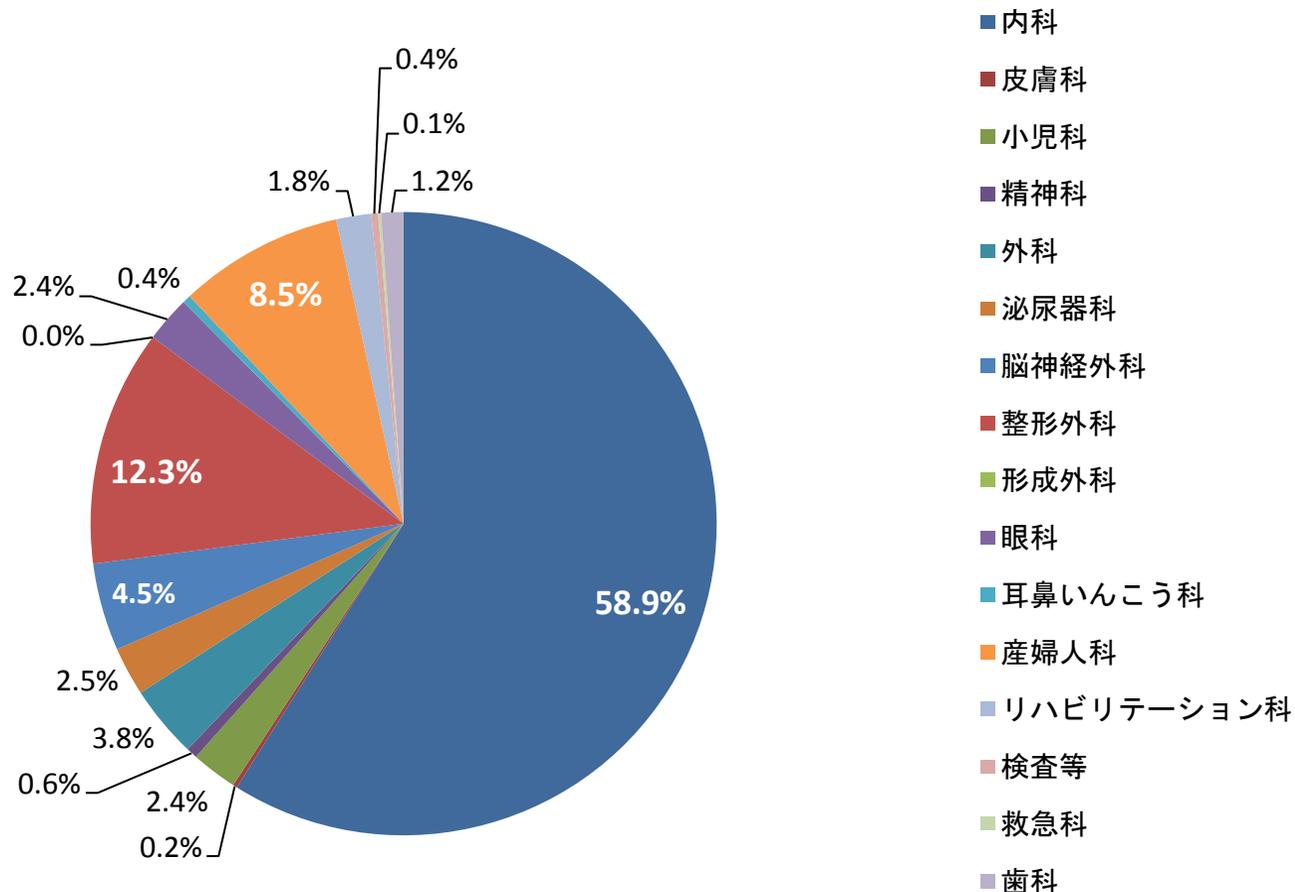
○在院患者が3人以上である診療科数で比較したところ、一般病床からの退院患者のうち、手術を実施した患者の割合について中央値で比較すると、診療科が1科では5.6%、2～3科で13.9%、4～6科で29.0%、7科以上で39.7%と、診療科数が多い病院ほど手術を実施した患者の割合は高い。



# 診療科が1科である病院の割合

○在院患者が3人以上である診療科数が1科である病院について、その診療科別の割合を比較したところ、内科が58.9%、整形外科が12.3%、産婦人科が8.5%の順が多かった。  
○また、脳神経外科が4.5%、泌尿器科が2.5%、眼科が2.4%であった。

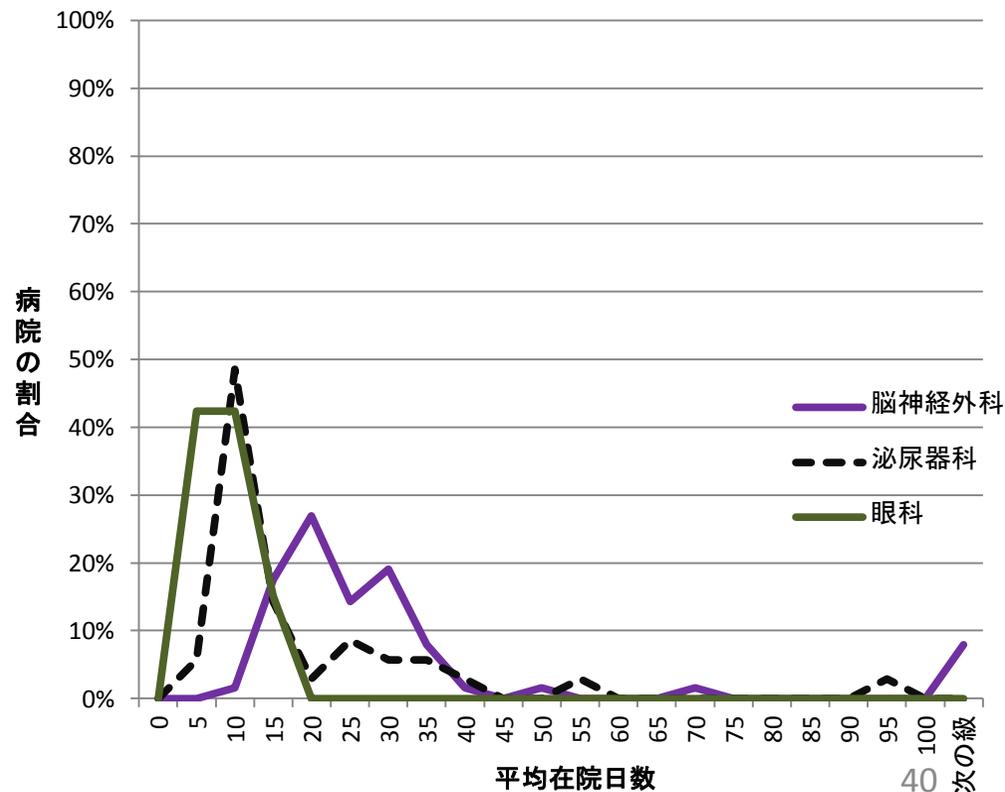
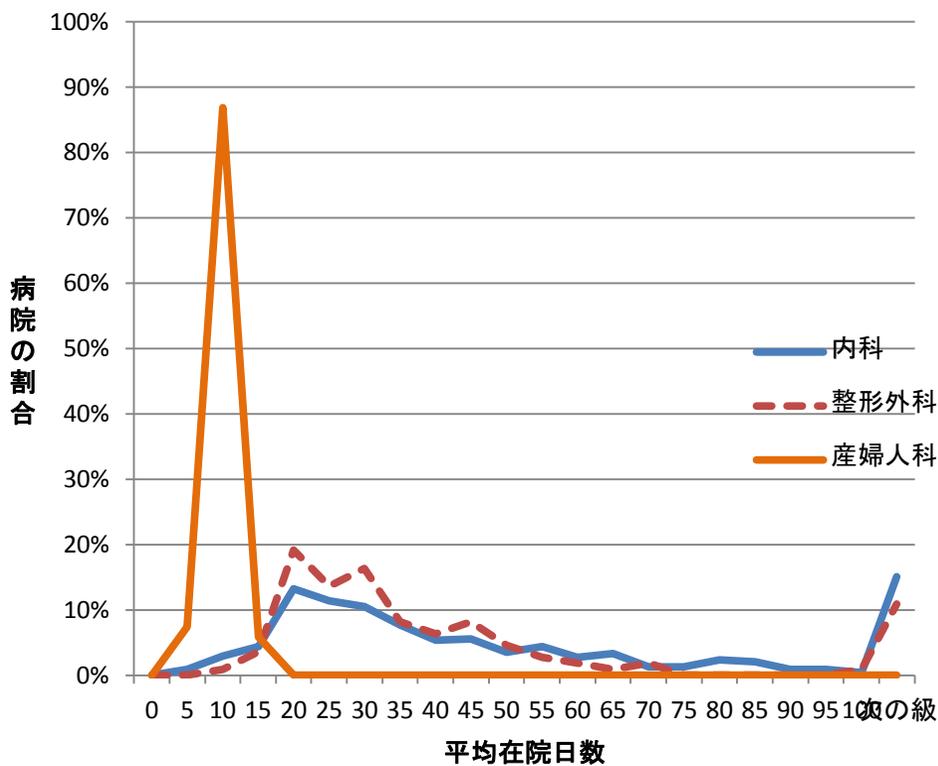
1診療科のみの病院における診療科



# 診療科が1科である病院における平均在院日数

○診療科別の平均在院日数を比較すると、内科34.2日、整形外科28.8日、産婦人科6.7日、脳神経外科21.2日、泌尿器科12.4日、眼科5.5日となり、診療科による差が大きいといえる。

診療科数 (該当病院数)	内科 (545)	整形外科 (110)	産婦人科 (68)	脳神経外科 (63)	泌尿器科 (35)	眼科 (33)
平均在院日数 (日)	34.2日	28.8日	6.7日	21.2日	12.4日	5.5日



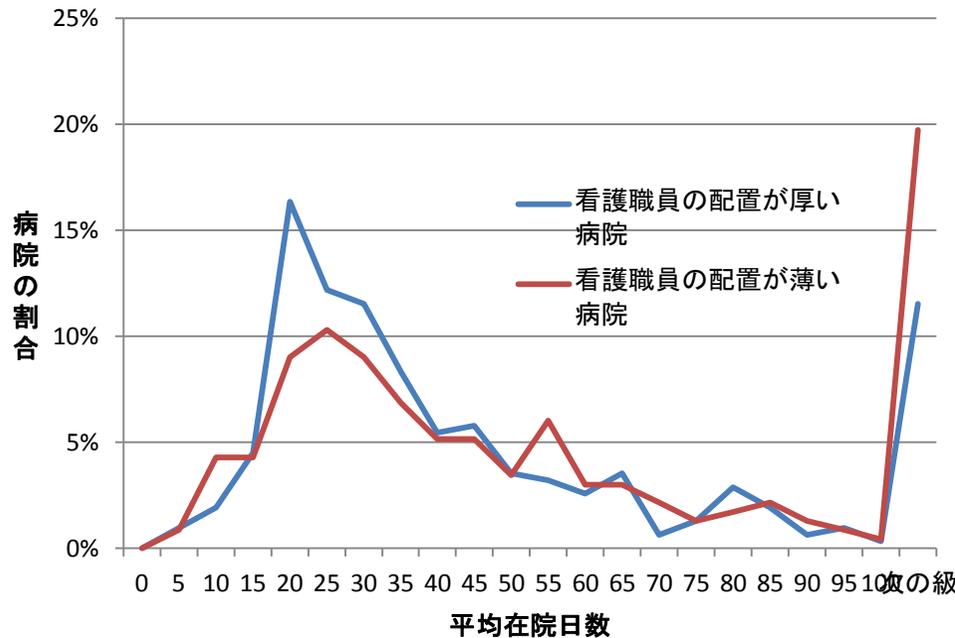
# 診療科数が1科である病院における平均在院日数(看護職員の配置別)

○在院患者が3人以上である診療科数が1科である病院について、平均在院日数を比較したところ、内科、整形外科ともに、看護職員の「配置が厚い病院(※1)」は、看護職員の「配置が薄い病院(※2)」に比べて、内科については5.9日、整形外科については4.6日短くなった。

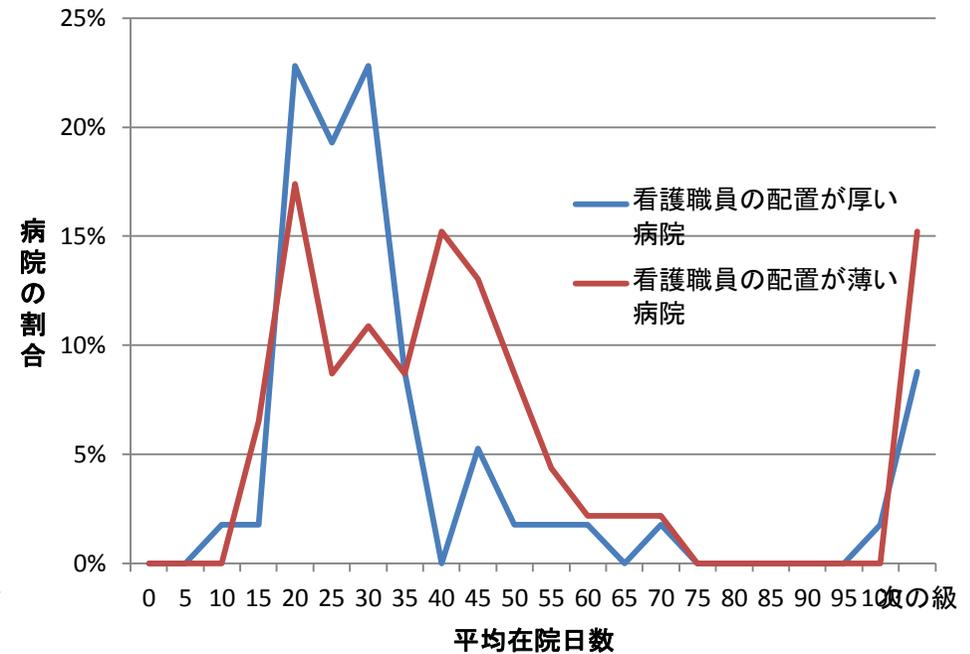
※1 一般病床100床当たりの病棟看護職員常勤換算数が40人以上の病院 ※2 一般病床100床当たりの病棟看護職員常勤換算数が40人未満の病院

診療科	内科のみ		整形外科のみ	
	配置が厚い病院	配置が薄い病院	配置が厚い病院	配置が薄い病院
平均在院日数(日)	31.7日	37.6日	26.8日	31.4日
(100日以上の病院を除いて計算した平均在院日数)	(26.8日)	(28.6日)	(23.9日)	(27.4日)

## 内科のみの病院の平均在院日数



## 整形外科のみの病院の平均在院日数





## 5. 病院の特性ごとの平均在院日数について

# 退院患者の平均在院日数の分析(病院の一般病床について)

- 平均在院日数について、例えば眼科疾患など、他と比べて明らかに平均在院日数が短い疾患が及ぼす影響等について検討。
- 傷病分類別平均在院日数と、全傷病に対する各傷病分類毎の患者数が占める割合を基に平均在院日数を試算すると21.1日となる。眼科系の疾患患者がゼロと仮定した場合に、同様の手法で平均在院日数を試算すると、21.6日となり、約0.5日伸びる。

	傷病分類別 平均在院日数 (日)	患者数 (千人)	全患者数に 占める割合	眼科系疾患患者がゼ ロとした場合の全患 者数に占める割合
感染症及び寄生虫症	19	33.4	3.1%	3.3%
新生物	21.2	216.5	20.4%	21.1%
血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	23.5	6.9	0.6%	0.7%
内分泌, 栄養及び代謝疾患	23.3	31.7	3.0%	3.1%
精神及び行動の障害	43.4	6.4	0.6%	0.6%
神経系の疾患	40.8	30.2	2.8%	2.9%
<b>眼及び付属器の疾患</b>	<b>7.7</b>	<b>37.3</b>	<b>3.5%</b>	-
耳及び乳様突起の疾患	10.1	8.9	0.8%	0.9%
循環器系の疾患	28.5	139.5	13.1%	13.6%
呼吸器系の疾患	21.7	91.6	8.6%	8.9%
消化器系の疾患	13.9	133.8	12.6%	13.0%
皮膚及び皮下組織の疾患	23.5	14.3	1.3%	1.4%
筋骨格系及び結合組織の疾患	27.4	49.7	4.7%	4.8%
腎尿路生殖器系の疾患	20.3	55.7	5.2%	5.4%
妊娠, 分娩及び産じょく	9.1	55.2	5.2%	5.4%
周産期に発生した病態	12.3	13.4	1.3%	1.3%
先天奇形, 変形及び染色体異常	19.7	8	0.8%	0.8%
症状, 徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	16.8	23.7	2.2%	2.3%
損傷, 中毒及びその他の外因の影響	26.8	93.1	8.8%	9.1%
健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	7.6	14.5	1.4%	1.4%

21.1日

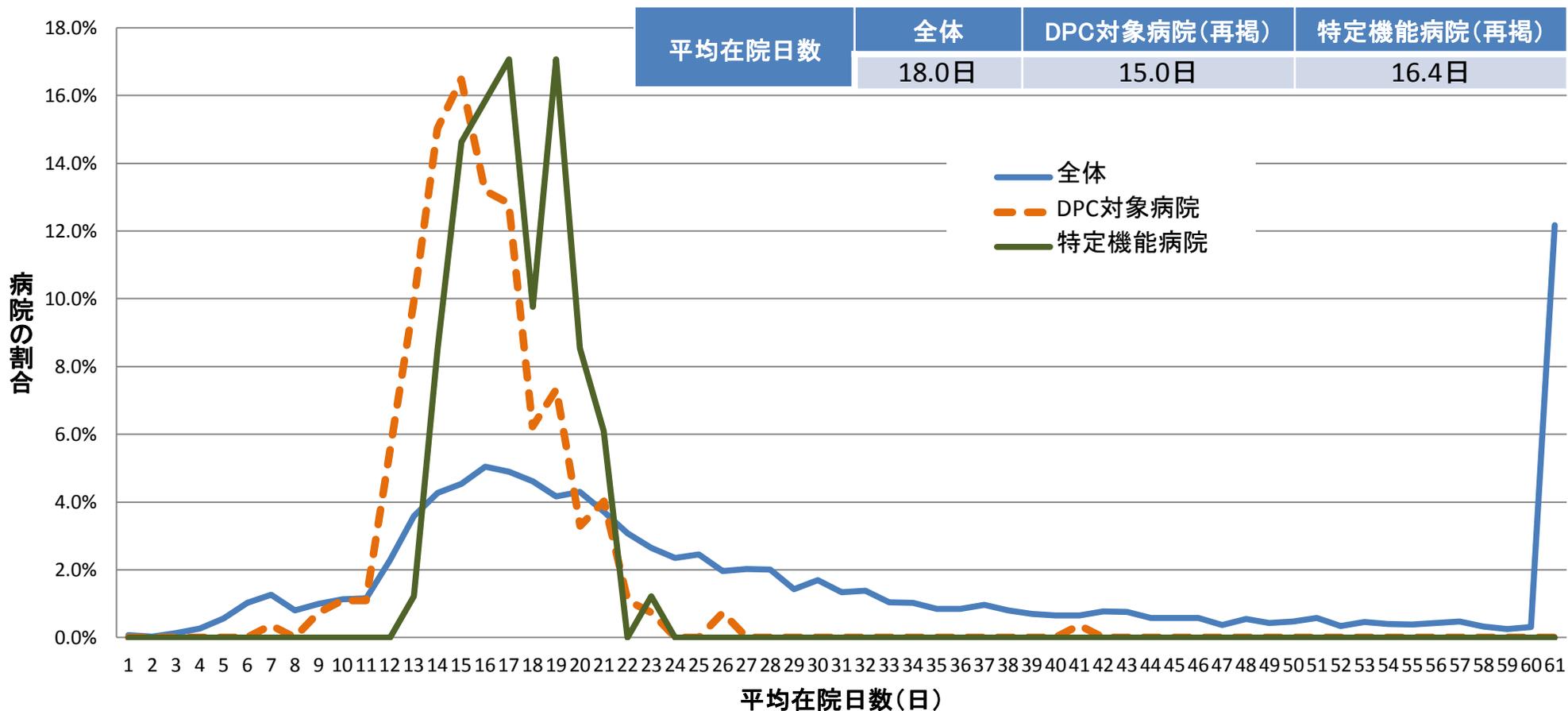
21.6日

※ここでいう「平均在院日数」は、「患者調査」のデータによる。

「平成20年患者調査」を基に医政局で作成

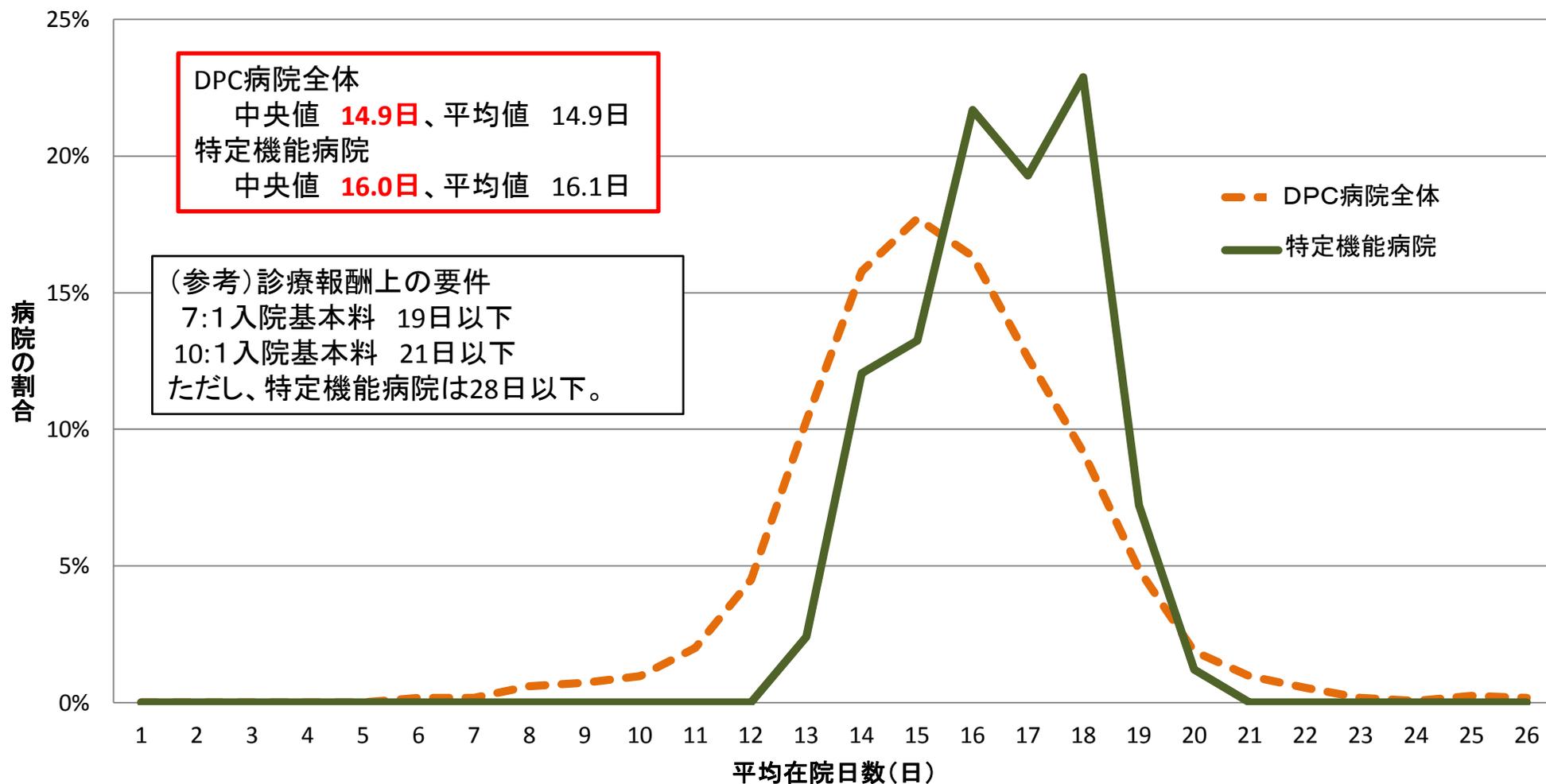
# DPC対象病院と特定機能病院における平均在院日数(病院報告により算出)

- 「一般病床を有する病院」において、一般病床に入院する患者の平均在院日数は18日。このうち、分析対象のDPC対象病院の一般病床に入院する患者の平均在院日数は15日であり、一般病床を有する病院全体に比べて3日短い。
- また、DPC対象病院のうち特定機能病院について、一般病床の平均在院日数は16.4日であり、全体と比べて1.6日短いですが、DPC対象病院全体と比べると1.4日長い。



# DPC病院と特定機能病院における平均在院日数(DPCデータにより算出)

○ DPC病院(DPC対象病院とDPC準備病院を含む。)の平均在院日数は14.9日。そのうち、特定機能病院の平均在院日数は16日であり、DPC病院全体に比べて1.1日長い。



※ここでいう「平均在院日数」は、DPCデータによる。

「平成23年度第9回診療報酬調査専門組織・DPC評価分科会」を基に医政局で作成